令和７年度

登別の教育

登別市教育委員会

令和７年１２月作成

目　　次

登別市の概要

位置及び面積、市名の由来、登別市の沿革　・・・・・・・・・・・・・　１

登別市の市章、登別市の花・花木・木、登別市民憲章　・・・・・・・・　２

国際観光レクリェーション都市宣言　・・・・・・・・・・・・・・・・　２

教育行政

教育委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

歴代教育委員　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

歴代教育委員長・歴代教育長　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

登別市の教育のあゆみ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６

小・中学校児童生徒数の推移　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５

小・中学校の学校数・学級数等の推移　・・・・・・・・・・・・・・・・　１６

登別市立小・中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１８

登別市内の高等学校、専門学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３０

社会教育施設・図書館　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３３

学校給食センター　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３９

各種審議会委員等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４１

のぼりべつの文化財　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４３

登別市小・中学校・高等学校統廃合校の沿革と校歌　・・・・・・・・・・　５５

室蘭常盤学校幌別分校（現幌別小学校）設立請願書　・・・・・・・・・・　５９

登　別　市　の　概　要

位置及び面積

登別市は、北海道の南西部に位置し、形状はほぼひし形をなしている。

南は太平洋に面し、その海岸線はほぼ一直線である。東は登別漁港、クッタラ湖付近で白老町と接し、北はオロフレ峠、来馬岳付近で壮瞥町と接している。

さらに、西は鷲別岬から鷲別岳にかけて室蘭市と伊達市に接している。

東経　１４１度１１分２２秒　　北緯　４２度２０分５９秒

面積　２１２．２１平方キロメートル

姉妹都市　宮城県白石市（昭和５８年１０月）、
神奈川県海老名市（平成２７年５月）

交流都市トライアングル宣言（平成２３年４月）
宮城県白石市・神奈川県海老名市

姉妹温泉　群馬県草津温泉（昭和４７年６月）

人口（令和７年４月末日現在）
４３，１６６人　（男　２０，６３８人、女　２２，５２８人）

世帯数　　２３，８１９世帯

市名の由来

登別市の名前は、アイヌ語の「ヌプルペッ」（色の濃い川）に由来する。
（温泉から流れ出る川なので、水が暗く濁っていることから名付けられた。）

登別市の沿革

明治２年に幌別郡の支配を命じられた仙台藩旧白石城主－片倉小十郎邦憲が中心となって、明治３年７月以降に７６戸２７０人が移住し、先住のアイヌ民族と協力した生活が始まった。

この頃の登別は、幸いなことに、隣接する室蘭では鉄鋼産業が発展し、明治２５年に夕張から室蘭に石炭を運ぶ北海道炭砿鉄道が敷かれ、幌別、登別の停車場が開業し、街としての発展の基礎が出来た。そして、登別温泉と登別駅との間を結ぶ交通の便として客馬車、次いで軽便鉄道、電車が走り、昭和に入るとバスが走った。登別温泉は徐々に観光拠点として整備が進んでいったが、その他は急速な発展を見ることがなかった。

だが、第２次世界大戦に入るや室蘭の鉄鋼産業は急速に活発化し、昭和１５年以降、現在の富士町に日鉄社宅１，４５０戸が建設され、温泉の街に工業都市・室蘭市のベッドタウンとしての要素も加わって、更に飛躍する契機となった。それは同時に本市が室蘭の工業と構造的な結びつきによって、後年室蘭に隣接する鷲別地区に住宅が増大し、両地区が将来的には完全に連担する要因となった。

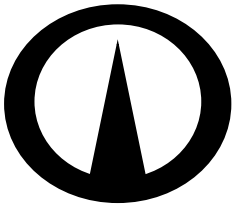
戦後、札内は、畑作から酪農へと転換していった。こうして、昭和２６年幌別町として町制をしく街に発展し、更に昭和３６年に登別町として町名を改正し、昭和４５年には待望の市制が施行された。

市制施行当時は、室蘭工業圏を支える住宅地として人口の急速な増加が見られ、教育施設をはじめ、生活環境や公共施設の整備が急務とされた時代であったが、現在登別市は、国際観光レクリェーション宣言の街として、美しい自然環境を守り、真に豊かで快適な「まちづくり」を目指し、道内有数の観光地として発展している。

更にまちづくりのキャッチフレーズを「人が輝き、まちがときめく、ふれあい交流都市のぼりべつ」と掲げ、市民の思い描く夢を将来像として、登別ゆめまち構想に反映させた新しい総合計画を基に、まちづくりの理念の実現に向けた取り組みを進めている。

登別市の市章

力強く伸びる市の将来を表現したもので、登別の頭文字「の」を単純かつ明瞭化し、円内左右の空間は市勢伸長の二大基盤である鉱業、観光の意義を含め、中心の長三角形は限りなく躍進する登別市の発展を希ったものである。



登別市の花・花木・木

［登別の花］
キク



［登別の花木］
ツツジ



［登別の木］
プラタナス



登別市民憲章

わたしたちは　古い歴史と美しい自然に恵まれた登別の市民です
ここに　わたしたちの心がまえを定めてよりよいまちをつくることに努めます

1　心身をきたえよく働いて　活気あふれる豊かなまちをつくりましょう
2　親切をつくし　きまりを守って　明るくすみよいまちをつくりましょう
3　自然を愛し　力をあわせて緑と空気と太陽のいっぱいあるきれいなまちをつくりましょう
4　未来をつくる青少年の　健全な夢の育つまちをつくりましょう
5　教養をつみ　視野を広げて　平和で文化のかおり高いまちをつくりましょう

（－昭和４３年９月２０日制定－）

国際観光レクリェーション都市宣言

美しい自然と無限の温泉に恵まれた登別市は、北海道観光の宝です。生活を楽しみ、心身を健やかに、明日への活力を求め、世界の人々が相い集う街、理想郷登別市を目指して、ここに「国際観光レクリェーション都市」を宣言します。　（―昭和６１年３月２４日決議―）

1　教　育　行　政

1　教育委員会



教　育　長

安　宅　錦　也

令和４年１０月２３日就任



委員（教育長職務代理者）

赤　井　秀　輝

平成２４年１０月７日就任



委　　員

堅　田　　裕

平成２６年１０月１日就任



委　　員

上　村　正　人

令和元年１０月１日就任



委　員

木　村　雅　美

令和元年１２月１９日就任

２　歴代教育委員

氏　　名	自	至	備　　考
赤　坂　準　一	S27.10. 1	S37.12.31	公選委員（31.10.1　任命）
藤　平　喜三郎	S27.10. 1	S39.11. 5	〃
花　輪　高　弘	S27.10. 1	S31. 9.30	公選委員
武　安　良　助	S27.10. 1	S31. 9.30	〃
平　畠　文次郎	S27.10. 1	S30. 9.30	議会選出委員
麻　生　外次郎	S30.10. 1	S31. 9.30	〃
上　田　邦　男	S31.10. 1	S41. 6. 8	任命制による委員（以下同じ）
勝　間　久太郎	S31.10. 1	S38. 9.30	
中川原　　豊	S31.10. 1	S39. 9.30	
浜　本　武　志	S38. 4. 1	S38.12.12	
若　狭　徳兵衛	S38.11.12	S42.11.11	
柳　沼　高　杉	S39. 4. 5	S44. 9.30	
筒　井　敬　祐	S39.10. 1	S42. 4.18	
宮　崎　徳　治	S38.11.12	S41. 9.30	
中川原　　豊	S41. 6. 9	S46. 9.30	
国　分　恒　次	S41.10. 1	S45. 9.30	
高　橋　利　市	S42. 5.10	S43. 9.30	
内　藤　秀　吉	S42.11.15	S58. 9.30	
須　賀　武　夫	S43.10. 1	S63. 9.30	
山　下　文　雄	S44.10. 1	S53. 6.23	
桜　井　　弘	S45.10. 1	S53. 9.30	
川　島　芳　信	S46.10. 1	S55. 9.30	
吉　原　　暲	S53.10. 1	S61. 9.30	
大　笹　　繁	S53.10. 1	S56. 9.30	
阿　部　隆　雄	S55.10. 1	S59. 9.30	
安　田　麻　夫	S56.10. 1	S63. 9.20	
中　山　隆二郎	S58.10. 1	H 3. 9.30	
大　野　吉三郎	S59.10. 1	H 4.10. 6	
堅　田　　勇	S61.10. 1	H10. 9.30	
岩　倉　志　子	S63.10. 7	H 5. 9.30	
後　藤　八　良	S63.10.12	H12.10.11	
峰　田　弘　道	H 3.10. 1	H17. 6.21	
細　川　正　昭	H 4.10. 7	H11. 8.31	
中　山　節　子	H 5.10. 1	H13. 3.31	
志　賀　辰　哉	H10.10. 1	H14.10.24	
斉　藤　　亨	H11. 9.25	H16. 8. 5	
青　木　宏　司	H12.10.23	H14. 2. 8	
垣　内　登紀子	H13. 4. 1	R元.11. 3	
武　田　　博	H14. 2.20	H28.10.22	
千　葉　泰　二	H14.12.18	H26. 9.30	
松　村　昌　孝	H16.10. 7	H24.10. 6	
森　口　　達	H17. 9.29	R元. 9.30	
赤　井　秀　輝	H24.10. 7		
堅　田　　裕	H26.10. 1		
上　村　正　人	R元.10. 1		
木　村　雅　美	R元.12.19		

3　歴代教育委員長

氏　　名	自	至	備　　考
赤　坂　準　一	S27.10. 1	S28. 9.30	
花　輪　高　弘	S28.10. 1	S29.10. 1	
武　安　良　助	S29.10. 1	S30.10. 1	
藤　平　喜三郎	S30.10. 1	S39.10. 1	
上　田　邦　男	S39.10. 1	S41. 6. 8	
中川原　　豊	S41. 6. 9	S46. 9.30	
内　藤　秀　吉	S46.10. 1	S58. 9.30	
須　賀　武　夫	S58.10. 7	S63. 9.30	
中　山　隆二郎	S63.10. 7	H 3. 9.30	
大　野　吉三郎	H 3.10. 2	H 4.10. 6	
堅　田　　勇	H 4.10. 7	H10. 9.30	
峰　田　弘　道	H10.10. 6	H17. 6.21	
松　村　昌　孝	H17. 9.29	H24.10. 6	
垣　内　登紀子	H24.10.18	H28.10.22	

4　歴代教育長

氏　　名	自	至	備　　考
高　田　忠　雄	S27.11.10	S28. 3.31	兼　任
山　本　有　友	S28. 4. 1	S29. 6.16	〃
小　林　与　助	S29. 7.17	S30. 2.28	〃
高　田　忠　雄	S30. 3. 1	S30. 4.22	〃
後　藤　四　郎	S30. 4.23	S30. 9. 7	事務取扱
高　田　忠　雄	S30. 9. 8	S32. 3.31	職務代行
上　田　邦　男	S32. 4. 1	S34. 4.16	専　任（非常勤）
後　藤　四　郎	S34. 4.17	S34. 6. 3	職務代行
上　田　邦　男	S34. 6. 4	S38. 3.31	専　任（非常勤）
浜　本　武　志	S38. 4. 1	S38.12.12	専　任
上　田　邦　男	S38.12.13	S39. 4. 4	専　任（非常勤）
柳　沼　高　杉	S39. 4.22	S44. 9.30	専　任
山　下　文　雄	S44.10. 1	S53. 6.23	〃
大　笹　　繁	S53. 9.25	S56. 9.30	〃
安　田　麻　夫	S56.10. 1	S63. 9.20	〃
後　藤　八　良	S63.10.12	H12.10.11	〃
青　木　宏　司	H12.10.23	H14. 2. 8	〃
武　田　　博	H14. 2.20	R 4.10.22	〃 平成 28 年 10 月 23 日から新教育長
安　宅　錦　也	R 4.10.23		専　任

５　登別市の教育のあゆみ

明治　２年
　８月　幌別郡が置かれる。
明治　４年
　９月　幌別に共立教育所（郷学校・児童数２８名）を開設し、読書科、算術科、習字科の三科を設けた。
明治　５年
　８月　学制交付
明治１４年
　６月　室蘭常盤学校幌別分校（現幌別小学校）を創立する。《幌別分校開設に当たり開拓使あてに書かれた貴重な資料である請願書をＰ５９に掲載》
明治１５年
　８月　室蘭常盤学校鷲別分校（現鷲別小学校）を創立する。
　１０月　室蘭常盤学校幌別分校が幌別学校として独立し、室蘭常盤学校鷲別分校が幌別学校鷲別分校に名称変更する。
明治１７年
　９月　幌別学校鷲別分校が独立して鷲別小学校に改称する。
明治１９年
　４月　鷲別尋常小学校が戸数減少で廃校となり、幌別小学校付属鷲別分校となる。
明治２１年
　４月　ジョン・バチラー氏が私立相愛学校（後の愛隣学校）を創設する。
明治２３年
　３月　鷲別小学校と改称し、再び創立、独立する。（鷲別尋常高等小学校学校台帳より）
明治２５年
　６月　幌別尋常小学校鷲別小学校が鷲別岬の神社下に新築移転する。
　８月　幌別尋常小学校登別分校を開設する。
明治２８年
　４月　幌別尋常小学校登別分校が登別尋常小学校として独立する。
　８月　満冏寺（室蘭市）が登別温泉に説教所を設立し、寺小屋教育を開設する。
明治２９年
　５月　塵別尋常小学校富岸分校を開校する。
明治３３年
　４月　幌別、鷲別、登別の各校に補習科を設置する。
　５月　幌別尋常小学校付属札内簡易教育所を開設する。
　５月　塵別尋常小学校富岸分校が富岸簡易教育所として独立する。
明治３４年
　４月　幌別尋常小学校鷲別分校が鷲別尋常小学校として独立する。
明治３６年
　４月　登別尋常小学校付属分教場を開設する。（温泉小学校沿革誌より）
明治３９年
　４月　登別尋常小学校付属分教場が湯ノ滝簡易教育所として独立する。
（温泉小学校沿革誌より）
　５月　幌別尋常小学校付属幌別鉱山教育所（鉱山小学校前身）を開設する。
明治４１年
　４月　小学校令により尋常科６年、高等科２年と改正される。
　４月　湯ノ滝簡易教育所が湯乃滝教育所に改称する。
明治４２年
　４月　富岸簡易教育所が富岸教育所に改称する。
　１１月　幌別尋常小学校付属旭鉱特別教授場を開設する。

明治４４年
２月　登別尋常小学校蘭法華特別教授所を開設する。
大正　２年
２月　登別尋常小学校蘭法華特別教授所を廃止する。
９月　登別尋常小学校が校舎を増築する。
１０月　幌別尋常小学校付属札内簡易教育所を廃止する。
大正　４年
４月　湯乃滝教育所を湯乃滝尋常小学校と改称する。
６月　幌別尋常小学校付属旭鉱特別教授場が幌別鉱山尋常小学校の所属になる。
大正　５年
４月　幌別尋常小学校付属札内教育所が開校する。
７月　鷲別尋常小学校が栄町１丁目に新築移転し、富岸教育所を併合する。
大正　６年
４月　幌別尋常小学校に高等科を併置する。
大正　７年
４月　鉱山小学校に補習科を併置する。
４月　幌別鉱山尋常小学校付属旭鉱特別教授場が旭尋常小学校となる。
４月　湯乃滝尋常小学校を登別温泉尋常小学校と改称し、現在地に移転する。
大正　９年
４月　登別尋常小学校に高等科を併置する。
７月　旭尋常小学校が廃校となる。
大正１１年
４月　鷲別尋常小学校付属富岸特別教授場を設置する。
６月　鷲別尋常小学校が鷲別村１３８番地に新築移転する。
大正１２年
４月　登別温泉尋常小学校付属カルルス特別教授場（カルルス温泉小学校前身）を開設する。
昭和　５年
４月　登別温泉尋常小学校に高等科を併置する。
昭和　８年
４月　鷲別尋常小学校付属富岸特別教授場が富岸尋常小学校と改称して独立する。
１２月　登別温泉尋常小学校付属カルルス特別教授場がカルルス温泉尋常小学校に改称して独立する。
昭和　９年
４月　幌別鉱山尋常小学校が補習科を廃止し、高等科を併置する。
７月　富岸尋常小学校が校舎を改築する。
昭和１０年
４月　鷲別尋常小学校に高等科を併置する。
５月　幌別尋常高等小学校が新築落成する。
昭和１１年
１月　登別尋常高等小学校の新校舎が完成する。
昭和１５年
４月　幌別尋常小学校付属札内教育所が札内尋常小学校として独立する。
１０月　鷲別尋常高等小学校が鷲別町１７１番地（現在地）に移転新築する。
昭和１６年
４月　全小学校の名称が国民学校として改称され、教育の戦時体制化が図られる。
昭和２０年
１月　軍令により登別国民学校の一部が兵舎となり、終戦まで続く。
昭和２２年
１月　学校給食が希望校の求めに応じて開始される。
４月　学校教育法が制定され、６・３・３・４制となり国民学校を小学校に改称する。

このときの登別の小学校は幌別、鷲別、富岸、幌別鉱山、札内、登別、登別温泉、カルルス温泉の８校であった。

５月　新学制により中学校を幌別、鷲別、登別に開設する。

７月　登別温泉中学校が開設され、この年に中学校４校を設立する。

昭和２３年

１０月　旧幌別中学校を仮校舎として北海道立室蘭高等学校（現北海道室蘭栄高校）幌別分校定時制として北海道登別高等学校が開校。

昭和２４年

５月　登別中学校が登別本町１丁目１番地１（現在地）に新築移転する。

１１月　幌別中学校札内分校が開校し、札内小学校に併設される。

昭和２５年

１月　社会教育委員を設置する。

７月　幌別小学校完全給食となる。

昭和２６年

４月　町制施行（幌別町）する。

８月　幌別小学校来馬分校（現幌別西小学校）が設立認可される。

昭和２７年

６月　幌別小学校来馬分校が幌別西小学校として独立改称する。

７月　登別小学校が校舎を増築する。

１０月　教育委員会発足　教育委員の公選　が行われる。

昭和２８年

４月　幌別鉱山中学校が幌別鉱山小学校に併設される。

１１月　幌別西小学校が完全給食となる。

昭和２９年

４月　札内中学校が独立し、札内小学校に併設される。

昭和３０年

１月　幌別小学校が全焼し、幌別西小学校及び幌別中学校を間借りして授業を行う。

１０月　全校舎（赤レンガ）を新築落成する。

昭和３１年

６月　「地教行法」の公布により、教育委員の公選廃止。

１０月　新教育委員（赤坂惇一氏、藤平喜三郎氏、上田邦男氏、勝間久太郎氏、中川原豊氏）が任命される。

昭和３２年

１０月　登別温泉小学校校舎（レンガ造）を新築落成する。

昭和３３年

２月　登別小学校が校舎を増築する。

１０月　鷲別小学校校舎（レンガ造）を新築落成する。

１０月　カルルス温泉小学校を新築落成する。

昭和３６年

２月　富岸小学校が校舎を新築落成する。

４月　登別町（幌別町から）として町名改正する。

昭和３８年

４月　町立登別高校を開設する。

４月　私立室蘭第二大谷高等学校（旧登別大谷高校）が開校する。

７月　登別中学校の新校舎が完成する。

９月　中央公民館を開館する。

１２月　鷲別公民館を開館する。

昭和４０年

４月　登別高校が道立に移管する。

４月　登別温泉小学校特殊学級として、厚生年金登別整形外科病院内に「ひかり学園（肢体不自由）」開設する。

４月　札内小･中学校の校舎を落成する。
１０月　鷲別小学校が校舎を増築する。
１０月　私立室蘭第二大谷高等学校が登別大谷高等学校に改称される。

昭和４１年
４月　幌別西小学校に特殊学級（知的障害）を設置する。
４月　登別温泉中学校の特殊学級として、厚生年金登別整形外科病院内に「ひかり学園（肢体不自由)」を開設する。
７月　登別の小・中学校初の学校プールが幌別西小学校に設置する。
１２月　登別公民館が完成する。

昭和４２年
１月　給食センターが開設され、町内小中学校が完全給食となる。
４月　幌別中学校に特殊学級（知的障害）を設置する。
４月　財団法人登別町育英会が設立される。

昭和４３年
２月　鷲別小学校が胆振管内教育実践表彰を受ける。
４月　鷲別小学校･鷲別中学校：特殊学級（知的障害）を設置する。
８月　町営陸上競技場を開設する。［３種公認、⇒S 48 年 11 月２種公認］

昭和４４年
４月　登別温泉公民館を開館する。
５月　登別市青少年会館を開館する。（開道 100 年記念事業）

昭和４５年
２月　登別中学校が北海道教育実践表彰を受ける。
４月　幌別東小学校を開校する。特殊学級（知的障害）を併設する。
８月　市制施行
１２月　札内小中学校の体育館が完成する。

昭和４６年
２月　幌別鉱山小学校が胆振管内教育実践表彰を受ける。
４月　若草小学校を開校する。

昭和４７年
５月　登別市立図書館が竣工する。

昭和４９年
２月　幌別東小学校が胆振管内教育実践表彰を受ける。
３月　幌別鉱山小中学校が閉校し、幌別西小学校・西陵中学校に統合する。
４月　西陵中学校を開校する。
４月　市内全域の町名地番変更　（登別市○○町○丁目○番地○）
１０月　総合体育館を開館する。
１１月　市民プール（千歳町）が完成する。

昭和５０年
２月　市民プール（千歳町）を開館する。

昭和５１年
４月　市立富士幼稚園を開園する。

昭和５２年
４月　青葉小学校を開校する。
４月　市立若草幼稚園を開園する。

昭和５３年
２月　幌別東小学校が北海道教育実践表彰・全国表彰「博報賞」を受ける。
４月　市立登別温泉幼稚園を開園する。
４月　富岸小学校が移転新築する。
４月　市民研修センターを開設する。（旧鉱山小･中学校施設を利用）
９月　登別中学校が文部省「生徒指導研究推進校」として感謝状を受ける。

昭和５４年
３月　若草小学校が胆振管内教育実践表彰を受賞する。
４月　富岸青少年会館を開館する。
４月　北海道登別南高等学校が開校する。
１１月　登別小学校が文部省指定北海道学校歯科保健活動の研究会を開催する。
昭和５５年
４月　若草小学校に特殊学級（知的障害）を設置する。
４月　学校法人登別大谷学園が発足する。
９月　市営水泳プール（野外）を開設する。
昭和５６年
１月　美園児童センターを開館する。
７月　幌別西小学校のＰＴＡ活動が北海道ＰＴＡ連合会と日本ＰＴＡ全国協議会より会長表彰を受ける。
９月　郷土資料館を開館する。
昭和５７年
２月　札内小中学校が胆振管内教育実践表彰を受ける。
３月　カルルス温泉小学校が閉校し、登別温泉小学校に統合する。
４月　日本工学院北海道専門学校開校する。
昭和５８年
４月　緑陽中学校を開校する。
６月　市民会館を開館する。
９月　登別温泉小学校ひかり学園分校が豪雨災害で登別厚生年金病院が休業したため休校となる。
９月　登別大谷高等学校の体育館が全焼する。
昭和５９年
２月　登別温泉中学校が胆振管内教育実践表彰を受ける。
４月　幌別小学校に言語治療教室を開設する。
４月　西陵中学校に特殊学級（知的障害）を設置する。
４月　登別中学校を改築する。（これにより、市内小・中学校が全て耐火構造となる）
６月　登別大谷高等学校の体育館が完成する。
１０月　登別小、登別中、幌別中の三校が文部省指定「道徳教育共同推進校」として研究会を開催する。
昭和６０年
６月　鷲別公民館を開館する。
１０月　鷲別小学校に野外プールを開設する。
昭和６２年
２月　登別温泉小学校が胆振管内教育実践表彰を受ける。
昭和６３年
５月　幌別西小学校がベルマーク百万点を達成し、全国教育設備助成会より表彰される。
平成　元年
３月　青葉小学校が「長縄跳び９０人」のギネスに挑戦し、１８５回を跳んで世界新記録を樹立する。
４月　教育委員会に生涯学習推進室を新設する。
平成　２年
８月　市立図書館を改修する。
９月　登別小学校を改修する。
９月　幌別東小学校・幌別中学校が文部省指定「道徳教育共同推進校」として研究会を開催する。
１０月　幌別中学校とデンマーク・ノーアエアスクールとの姉妹校友好を契る。
平成　３年
２月　幌別中学校が胆振管内教育実践表彰を受ける。

６月　幌別西小学校に「オアシスルーム」を開設する。
９月　若草小学校に「若草ドーム」を開設する。
１１月　登別中学校の校舎大規模改造工事３年度分が完了する。

平成　４年
４月　登別温泉中学校が北海道知事より「愛鳥モデル校」として指定を受ける。
５月　富岸小学校が全日本花いっぱい連盟より表彰を受ける。
１０月　幌別中学校が「社会を明るくする運動」で法務大臣表彰を受ける。
１１月　登別中学校の校舎大規模改造工事４年度分が完了する。
１１月　登別中学校に「ミツワルーム」を開設する。（生徒用コンピュータ導入）
１１月　各中学校にコンピュータを２台ずつ設置する。
１２月　富岸小学校が胆振管内教育実践表彰を受ける。
１２月　幌別小学校の校舎改築工事に着工する。

平成　５年
６月　鷲別中学校と幌別中学校に生徒用コンピュータを導入する。
１１月　富岸小学校のＰＴＡ活動が北海道ＰＴＡ連合会と日本ＰＴＡ全国協議会より会長表彰を受ける。
１１月　登別中学校体育館の大規模工事が完了する。
１２月　幌別小学校の改築工事が完成する。

平成　６年
３月　幌別小学校の改築工事が完了する。
３月　青葉小学校が胆振管内教育実践表彰を受ける。
９月　幌別小学校で新校舎落成記念式典が行われる。
１０月　西陵中学校が学校花壇全国表彰を受ける。

平成　７年
２月　幌別中学校が北海道教育実践表彰を受ける。
１０月　緑陽中学校にコンピュータ２１台を設置する。

平成　８年
３月　文化伝承館を開館する。
１０月　幌別西小学校が文部省より調査統計功労者表彰を受ける。

平成　９年
４月　岡志別の森運動公園を開園する。
８月　若草小学校の三階に和室を設置する。

平成１０年
３月　若草ドームを閉鎖する。
３月　登別温泉小中学校ひかり学園分校が廃止される。
４月　札内小中学校が閉校し、幌別小学校・幌別中学校に統合する。

平成１１年
２月　登別小学校にコンピュータ室を新設する。
３月　幌別小学校が北海道教育実践表彰を受ける。
８月　青葉小学校にコンピュータ（１４台）室を新設する。
９月　鷲別小学校にコンピュータ室を新設する。
１１月　緑陽中学校が「壁新聞コンクール」で学校賞を受ける。
１１月　若草小学校にコンピュータ室を新設する。

平成１２年
３月　西陵中学校が胆振管内教育実践表彰を受ける。
１１月　青葉小学校の光ファイバーケーブル敷設、校内ＬＡＮ配線工事が完了する。
１０月　西陵中学校の校舎・体育館大規模改造工事（校舎耐震改修含む）が完了する。
１２月　幌別東小学校にコンピュータルーム・準備室を設置する。

平成１３年
２月　西陵中学校が北海道教育実践表彰を受ける。

１０月　幌別中学校、幌別小学校、幌別東小学校のおやじの会が「胆振おやじの会サミット」を開催する。
１１月　登別小学校の光ファイバーケーブル敷設、校内ＬＡＮ配線工事が完了する。

平成１４年
１月　若草小学校の光ファイバーケーブル敷設、校内ＬＡＮ配線工事が完了する。
３月　登別小学校が胆振管内教育実践表彰を受ける。
４月　ネイチャーセンター「ふぉれすと鉱山」を開館する。
６月　登別中学校が登別漁港清掃活動で北海道漁港共同組合より全道表彰を受ける。
１０月　登別小学校が全日本学校歯科保健優良校として文部科学大臣表彰を受ける。

平成１５年
１０月　鷲別中学校が北海道「中学校の税に関する作文コンクール」で学校賞を受ける。
１１月　幌別小学校が文科省指定「国語力向上モデル事業」研究会を開催する。
１１月　幌別中学校「おやじの会」が日本ＰＴＡ全国協議会・北海道ＰＴＡ連合会より表彰される。
１２月　市民プール（千歳町）が閉館する。

平成１６年
３月　登別温泉中学校が閉校し、登別中学校に統合する。
６月　市民プール「らくあ」新設(野外・学校プールが全面閉鎖される)
１１月　若草小学校の校舎・体育館大規模改造工事（耐震改修含む）が完了する。
７月　市民プール（千歳町）を解体する。
１１月　富岸小学校が文科省「学力向上フロンティアスクール」公開研究会を開催する。

平成１７年
３月　北海道登別南高校が閉校する。
４月　北海道登別青嶺高等学校が開校する。
４月　鷲別小学校が文科省「子どもと親の相談員等活用調査研究事業」を推進する。
８月　鷲別小学校が学校前花壇で日本道路協会賞を受ける
１１月　幌別小学校が文科省指定「伝え合う力を養う調査研究事業」公開研究会開催「国語・日本語」部門で博報賞を受ける。

平成１８年
２月　富岸小学校が北海道教育実践表彰を受ける。
幌別東小学校が胆振教育実践表彰を受ける。
４月　西陵中学校が文科省「キャリア教育実践校」指定を受ける。
１０月　幌別小学校が文科省「伝え合う力を養う調査研究事業」公開研究会を開催する。

平成１９年
３月　登別温泉小学校が閉校し、登別小学校に統合する。
３月　北海道登別高等学校が閉校する。
４月　登別明日中等教育学校が開校する。
４月　幌別西小学校が文科省「子どもと親の相談員等活用調査研究事業」を推進する。
６月　のぼりべつ文化交流館を開館する（旧温泉中学校校舎を利用）
１０月　幌別中学校が「社会を明るくする運動」で北海道実施委員会の委員長表彰を受ける。
１１月　幌別小学校が文科省「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」公開研究会を開催する。
１１月　登別小学校が文科省「コミュニティ・スクール推進事業」公開研究会を開催する。
１１月　鷲別中学校が文科省「人間としてのあり方・生き方を考える教育」実践研究事業の公開研究会を開催する。

平成２０年
２月　幌別東小学校が北海道教育実践表彰を受ける。
２月　登別中学校でサイパン中学生交流事業を実施する。
６月　洞爺湖サミットアメリカ合衆国歓迎式典に登別ＯＭＢ（おにっこマーチングバンド）が参加する。
６月　鷲別小学校が放課後こども教室「ひなわしメート」を開設する。

平成２１年
９月　新型インフルエンザが流行し、学級閉鎖・臨時休校が相次ぐ。
平成２２年
２月　全小中学校に大型デジタルテレビを配置する。
４月　市教委が文部科学省「全国学力・学習状況調査の結果を活用した調査研究」指定を受ける。
１０月　教育委員会点検・評価報告書（平成２１年度版）作成し公表を行う。
１２月　鷲別中学校の体育館の耐震改修が完了する。

平成２３年
３月　東日本大震災が発生し、大津波警報により多くの学校が避難所となる。姉妹都市白石市に、応援メッセージや義援金などの支援活動を行う。
１０月　幌別東小学校が放課後子ども教室「はまなすメート」を開設する。
１２月　青葉小学校の体育館耐震改修が完了する。
１２月　登別中学校の体育館耐震改修が完了する。
平成２４年
２月　全小学校でスキー授業を実施する。（青葉小学校はスケート）
１１月　暴風雪による大停電のため市内小中学校臨時休校(最長４日間)
１２月　幌別小学校の体育館耐震改修が完了する。
１２月　西陵中学校の体育館耐震改修が完了する。
平成２５年
４月　幌別小学校が道教委「学校力向上に関する総合実践事業」実践校の指定を受ける。
１２月　登別小学校の体育館耐震改修が完了する。
平成２６年
２月　富岸小学校の体育館耐震改修が完了する。
２月　全小中学校でフッ化物洗口を実施（中学校４校開始）
４月　幌別中学校が道教委「土曜授業推進事業」実践再委託校となる。
４月　他１２小・中学校で道教委「土曜授業推進事業」実践再委託協力校となる。
６月　市内全小・中学校でコミュニティ・スクールを開設する。
平成２７年
３月　鷲別小学校の屋内運動場改築工事が完了する（全ての屋内運動場耐震化完了)。
３月　鷲別中学校の校舎耐震改修が完了する。
３月　幌別小学校が平成２６年度胆振管内教育実践表彰を受ける。
５月　幌別中学校が神奈川県海老名市立大谷中学校修学旅行による生徒間交流を行う。
６月　登別市総合教育会議が設置される。
７月　鷲別小学校の校舎改築工事を着工する。
９月　登別小学校が平成２７年度日本教育公務員弘済会教育研究実践奨励校指定校となる。
１０月　登別小学校が北海道学校歯科保健優良校表彰優秀賞を受ける。
１２月　登別市学校支援地域本部事業が文部科学大臣表彰を受ける。
平成２８年
１月　総合体育館の耐震改修・大規模改修が完了する。
２月　登別市いじめ防止基本方針が策定される。
７月　登別市教育大綱が策定される。
１２月　鷲別小学校の校舎改築工事が完了する。
平成２９年
２月　青葉小学校の校舎の耐震改修が完了する。
５月　市長部局に登別市いじめ調査委員会を、教育委員会に登別市重大事案対策委員会を設置する。
平成３０年
１月　登別中学校の校舎渡り廊下改築が完了する。
２月　登別中学校の校舎耐震改修が完了する。
２月　登別小中一貫教育基本方針が策定される。

３月　鷲別小学校の外構工事が完了する。
９月　鷲別小学校で新校舎落成記念式典が行われる。
９月　登別市立学校における働き方改革基本方針が策定される。

平成３１年（令和元年）
２月　富岸小学校の校舎耐震改修が完了する。
３月　登別市教育振興基本計画が策定される。
７月　登別市立学校に係る部活動の方針が策定される。
１２月　幌別西小学校の校舎耐震改修が完了する。

令和　２年
２月～５月　新型コロナウイルス感染症対策のため小中学校臨時休業 2/27～3/24、4/20～5/31
３月　幌別西小学校の渡り廊下改築工事が完了する。
３月　登別小学校の校舎耐震改修が完了する。
３月　登別市教育施設長寿命化計画が策定される。
９月　登別公民館が施設老朽化のため廃止となる。

令和　３年
３月　幌別東小学校の校舎耐震改修が完了する。（市内小学校の耐震化が完了する。）
３月　幌別中学校の校舎耐震改修が完了する。（市内中学校の耐震化が完了する。）
３月　ＧＩＧＡスクール構想に伴う一人一台端末（Chromebook）が整備される。
３月　市内小中学校１３校へ無線通信ネットワークが整備される。
７月　登別市立中学校における重大事態の再発防止策が策定される。
８月　登別市立中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～が策定される。

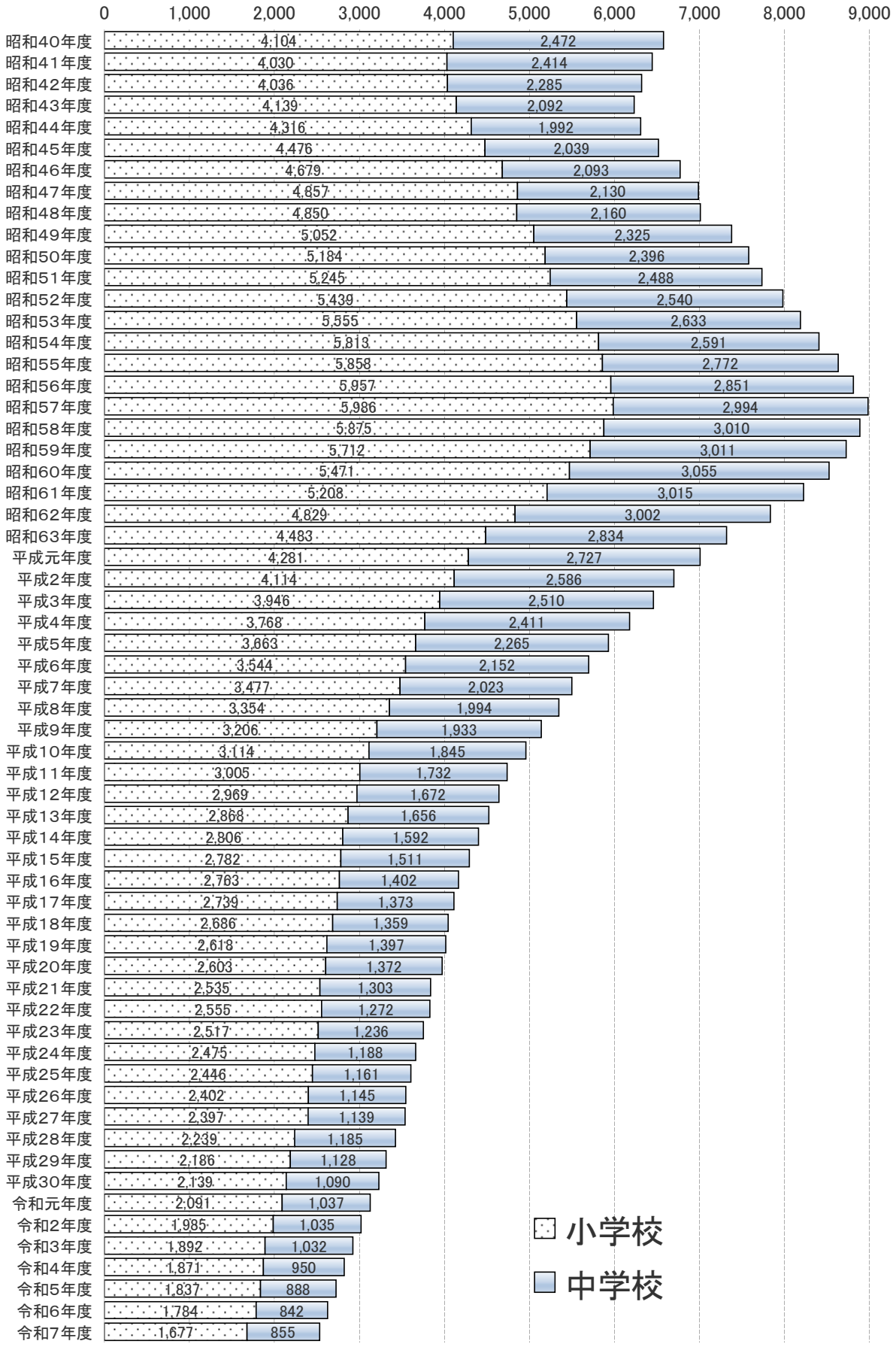
令和　４年
１月　登別市営陸上競技場の供用を廃止し、市役所本庁舎建設予定地となる。
３月　富岸青少年会館が施設老朽化のため廃止される。
３月　鷲別公民館及び登別温泉公民館がコミュニティ施設への再編により用途廃止となる。
３月　幌別東小学校の統合に関する方針が策定される。
３月　登別市教育施設等個別施設計画が策定される。

令和　５年
９月　登別地域クラブ活動が開始される。（休日）
９月　登別中学校の統合に関する方針が策定される。
１２月　室蘭市との学校給食共同調理場の広域設置・運用に関し、合意する。

令和　６年
３月　幌別小学校校舎予防改修工事が完了する。
３月　西陵中学校が子供の読書活動優秀実践校として文部科学大臣表彰を受ける。
４月　登別地域クラブ活動が開始される。（平日）

令和　７年
３月　幌別東小学校が閉校し、幌別小学校に統合する。

小・中学校児童生徒数の推移



小中学校の学校数・学級数等の推移(昭和40年～平成6年)

各年5月1日現在

※ ( )内は特別支援学級児童生徒数及び学級数の内数

区分 / 年次	学校数			学級数			教職員数			小学校			中学校			合計		
	小	中	計	小	中	計	小	中	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
昭和40年度	9	6	15	106	62	168	136	104	240	2,092	2,012	4,104	1,229	1,243	2,472	3,321	3,255	6,576
昭和41年度	9	6	15	104	60	164	140	103	243	2,078	1,952	4,030	1,215	1,199	2,414	3,293	3,151	6,444
昭和42年度	9	6	15	107	59	166	145	106	251	2,064	1,972	4,036	1,143	1,142	2,285	3,207	3,114	6,321
昭和43年度	9	6	15	115	57	172	153	107	260	2,112	2,027	4,139	1,055	1,037	2,092	3,167	3,064	6,231
昭和44年度	9	6	15	126	54	180	169	108	277	2,210	2,106	4,316	1,007	985	1,992	3,217	3,091	6,308
昭和45年度	10	6	16	131	57	188	187	113	300	2,315	2,161	4,476	1,005	1,034	2,039	3,320	3,195	6,515
昭和46年度	11	6	17	142	56	198	204	114	318	2,376	2,303	4,679	1,049	1,044	2,093	3,425	3,347	6,772
昭和47年度	11	6	17	144	61	205	210	121	331	2,503	2,354	4,857	1,095	1,035	2,130	3,598	3,389	6,987
昭和48年度	11	6	17	145	63	208	220	124	344	2,498	2,352	4,850	1,123	1,037	2,160	3,621	3,389	7,010
昭和49年度	10	6	16	145	64	209	217	135	352	2,636	2,416	5,052	1,179	1,146	2,325	3,815	3,562	7,377
昭和50年度	10	6	16	149	66	215	221	135	356	2,726	2,458	5,184	1,199	1,197	2,396	3,925	3,655	7,580
昭和51年度	11	7	18	150	68	218	205	137	342	2,693	2,552	5,245	1,266	1,222	2,488	3,959	3,774	7,733
昭和52年度	12	7	19	157	68	225	237	139	376	2,761	2,678	5,439	1,323	1,217	2,540	4,084	3,895	7,979
昭和53年度	12	7	19	159	69	228	232	141	373	2,809	2,746	5,555	1,381	1,252	2,633	4,190	3,998	8,188
昭和54年度	12	7	19	162	69	231	239	143	382	2,937	2,876	5,813	1,343	1,248	2,591	4,280	4,124	8,404
昭和55年度	12	7	19	165	73	238	247	150	397	2,989	2,869	5,858	1,441	1,331	2,772	4,430	4,200	8,630
昭和56年度	12	7	19	170	76	246	256	156	412	3,020	2,937	5,957	1,492	1,359	2,851	4,512	4,296	8,808
昭和57年度	11	7	18	168	79	247	256	159	415	3,055	2,931	5,986	1,549	1,445	2,994	4,604	4,376	8,980
昭和58年度	11	8	19	166	80	246	250	166	416	3,030	2,845	5,875	1,517	1,493	3,010	4,547	4,338	8,885
昭和59年度	11	8	19	159	80	239	244	165	409	2,970	2,742	5,712	1,494	1,517	3,011	4,464	4,259	8,723
昭和60年度	11	8	19	154	82	236	239	168	407	2,826	2,645	5,471	1,538	1,517	3,055	4,364	4,162	8,526
昭和61年度	11	8	19	152	80	232	230	167	397	2,671	2,537	5,208	1,555	1,460	3,015	4,226	3,997	8,223
昭和62年度	11	8	19	152	83	235	225	166	391	2,524	2,305	4,829	1,526	1,476	3,002	4,050	3,781	7,831
昭和63年度	11	8	19	147	75	222	222	164	386	2,310	2,173	4,483	1,450	1,384	2,834	3,760	3,557	7,317
平成元年度	11	8	19	143	77	220	222	160	382	2,196	2,085	4,281	1,370	1,357	2,727	3,566	3,442	7,008
平成2年度	11	8	19	142	76	218	215	156	371	2,085	2,029	4,114	1,330	1,256	2,586	3,415	3,285	6,700
平成3年度	11	8	19	138	76	214	212	164	376	2,004	1,942	3,946	1,286	1,224	2,510	3,290	3,166	6,456
平成4年度	11	8	19	134	73	207	212	154	366	1,884	1,884	3,768	1,258	1,153	2,411	3,142	3,037	6,179
平成5年度	11	8	19	127	72	199	213	159	372	1,822	1,841	3,663	1,199	1,066	2,265	3,021	2,907	5,928
平成6年度	11	8	19	124	69	193	201	148	349	1,773	1,771	3,544	1,110	1,042	2,152	2,883	2,813	5,696

小中学校の学校数・学級数等の推移（平成7年～令和7年）

各年5月1日現在

※（ ）内は特別支援学級児童生徒数及び学級数の内数

区分 / 年次	学校数			学級数			教職員数			小学校			中学校			合計		
	小	中	計	小	中	計	小	中	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成7年度	11	8	19	124	68	192	201	151	352	1,738	1,739	3,477	1,028	995	2,023	2,766	2,734	5,500
平成8年度	11	8	19	120	65	185	200	149	349	1,717	1,637	3,354	984	1,010	1,994	2,701	2,647	5,348
平成9年度	11	8	19	115	63	178	198	148	346	1,662	1,544	3,206	965	968	1,933	2,627	2,512	5,139
平成10年度	9	6	15	(5) 109	(4) 59	(9) 168	192	141	333	1,621	1,493	(9) 3,114	909	936	(6) 1,845	2,530	2,429	(15) 4,959
平成11年度	9	6	15	(4) 106	(4) 59	(8) 165	234	142	376	1,571	1,434	(8) 3,005	878	854	(9) 1,732	2,449	2,288	(17) 4,737
平成12年度	9	6	15	(7) 110	(4) 57	(11) 167	192	139	331	1,556	1,413	(12) 2,969	839	833	(11) 1,672	2,395	2,246	(23) 4,641
平成13年度	9	6	15	(8) 108	(5) 57	(13) 165	193	136	329	1,499	1,369	(16) 2,868	832	824	(11) 1,656	2,331	2,193	(27) 4,524
平成14年度	9	6	15	(8) 108	(5) 56	(13) 164	194	135	329	1,456	1,350	(20) 2,806	819	773	(8) 1,592	2,275	2,123	(28) 4,398
平成15年度	9	6	15	(12) 111	(5) 53	(17) 164	191	135	326	1,399	1,383	(23) 2,782	806	705	(12) 1,511	2,205	2,088	(35) 4,293
平成16年度	9	5	14	(12) 110	(7) 49	(19) 159	206	117	323	1,366	1,397	(25) 2,763	762	640	(14) 1,402	2,128	2,037	(39) 4,165
平成17年度	9	5	14	(16) 113	(6) 47	(22) 160	211	114	325	1,343	1,396	(29) 2,739	729	644	(11) 1,373	2,072	2,040	(40) 4,112
平成18年度	9	5	0 14	(17) 112	(7) 52	(24) 164	203	114	317	1,321	1,365	(32) 2,686	719	640	(11) 1,359	2,040	2,005	(43) 4,045
平成19年度	8	5	13	(19) 111	(9) 51	(28) 162	171	102	273	1,310	1,308	(36) 2,618	718	679	(12) 1,397	2,028	1,987	(48) 4,015
平成20年度	8	5	13	(18) 110	(10) 51	(28) 161	155	94	249	1,297	1,306	(35) 2,603	706	666	(18) 1,372	2,003	1,972	(53) 3,975
平成21年度	8	5	13	(17) 108	(9) 51	(26) 159	168	104	272	1,276	1,259	(37) 2,535	653	650	(18) 1,303	1,929	1,909	(55) 3,838
平成22年度	8	5	13	(17) 108	(9) 50	(26) 158	172	105	277	1,323	1,232	(41) 2,555	615	657	(23) 1,272	1,938	1,889	(64) 3,827
平成23年度	8	5	13	(16) 107	(9) 47	(25) 154	168	99	267	1,307	1,210	(40) 2,517	589	647	(20) 1,236	1,896	1,857	(60) 3,753
平成24年度	8	5	13	(15) 104	(8) 46	(23) 150	173	97	270	1,286	1,189	(47) 2,475	591	597	(18) 1,188	1,877	1,786	(65) 3,663
平成25年度	8	5	13	(15) 105	(9) 46	(24) 151	174	97	271	1,287	1,159	(42) 2,446	604	557	(17) 1,161	1,891	1,716	(59) 3,607
平成26年度	8	5	13	(15) 102	(10) 44	(25) 146	169	96	265	1,279	1,123	(48) 2,402	595	550	(26) 1,145	1,874	1,673	(74) 3,547
平成27年度	8	5	13	(19) 105	(10) 45	(29) 150	173	98	271	1,265	1,132	(49) 2,397	595	544	(29) 1,139	1,860	1,676	(78) 3,536
平成28年度	8	5	13	(21) 106	(11) 49	(32) 155	175	102	277	1,160	1,079	(56) 2,239	629	556	(32) 1,185	1,789	1,635	(88) 3,424
平成29年度	8	5	13	(22) 107	(11) 45	(33) 152	175	98	273	1,130	1,056	(76) 2,186	606	522	(29) 1,128	1,736	1,578	(105) 3,314
平成30年度	8	5	13	(20) 105	(11) 44	(31) 149	173	95	268	1,094	1,045	(67) 2,139	590	500	(32) 1,090	1,684	1,545	(99) 3,229
令和元年度	8	5	13	(20) 105	(10) 42	(30) 147	172	92	264	1,075	1,016	(63) 2,091	573	464	(30) 1,037	1,648	1,480	(93) 3,128
令和2年度	8	5	13	(18) 99	(10) 43	(28) 142	161	92	253	1,028	957	(63) 1,985	573	462	(27) 1,035	1,601	1,419	(90) 3,020
令和3年度	8	5	13	(20) 98	(9) 44	(29) 142	160	95	255	(55) 987	(14) 905	(69) 1,892	(17) 566	(5) 466	(22) 1,032	(72) 1,553	(19) 1,371	(91) 2,924
令和4年度	8	5	13	(19) 95	(10) 43	(29) 138	163	93	256	(59) 989	(15) 882	(74) 1,871	(19) 488	(5) 462	(24) 950	(78) 1,477	(20) 1,344	(98) 2,821
令和5年度	8	5	13	(21) 98	(12) 43	(33) 141	159	94	253	(60) 906	(14) 931	(74) 1,837	(23) 438	(12) 450	(35) 888	(83) 1,344	(26) 1,381	(109) 2,725
令和6年度	8	5	13	(20) 93	(12) 43	(32) 136	157	92	249	(65) 951	(16) 833	(81) 1,784	(27) 424	(10) 418	(37) 842	(92) 1,375	(26) 1,251	(118) 2,626
令和7年度	7	5	12	(27) 93	(12) 42	(39) 135	153	92	245	(77) 876	(23) 801	(100) 1,677	(31) 450	(10) 405	(41) 855	(108) 1,326	(33) 1,206	(141) 2,532

登別市立幌別小学校



創立年月日	明治１４年６月１４日
所在地	登別市中央町６丁目１９番地1
電話・ＦＡＸ	TEL 85-2521　　Fax 85-2522
校長名	松　田　周　一
教頭名	伊　藤　　健
児童生徒数	２５５名
学級数	普通１０　特別４　計１４学級
職員数	２７名
敷地面積	２７，３３６m^2

特色ある教育活動

・学校・地域・保護者が一体となって子どもを育むコミュニティ・スクール
・教材園での栽培活動
・花の植替などのボランティア活動
・外国人との交流を通した国際理解教育
・ＩＣＴ活用による情報活用力の向上
・全校一斉に取り組む朝読書・朝学習
・地域との交流「学校地域協働本部事業」
田植え、稲刈り、収穫祭、乗馬体験
・高学年外国語科における専科指導

研究主題

自律的に学ぶことができる子の育成
～児童が自律的に学ぶ力の向上を目指した授業観の転換～

学校教育目標

２１世紀に生きるため豊かな人間性の育成をめざし、児童一人一人個性豊かな能力を生かして心身ともに健全な日本国民の育成にあたる。
○すすんで学び　よく考える子
○互いに助けあい　思いやる子
○丈夫な体で　たくましく生き抜く子

学校経営方針・今年度の重点

【学校経営の基本的考え方】
○子供理解に基づく授業や共感的理解に立った生徒指導、生き生きと活動できる場の設定など「教育活動を深化する学校づくり」の推進
○「挨拶や返事、整える」ができ、自己肯定感有用感、一生懸命の心態度、円満な関係を築く思いやりをもった「自立・自律できる子ども」の育成
○早寝早起き朝ご飯の習慣や家庭での学習習慣の形成を図り、子どもの学びと安全を見守る「愛情で包む家庭、見守る地域」との協働

【学校経営の重点】
〈子どもの未来を支える学校を目指して〉
ア．安心・安全な学校生活
イ．学力保障（授業）
ウ．元気な毎日、健康な体
運営面：地域・学校・家庭が一体となった「学びの環境」づくり
指導面：確かな学力・豊かな心・健やかな体をバランスよく育む教育活動の推進

【学校経営の指針】
〈知力・心力・体力を一体とした子どもの総合的な学力形成の実現〉
⇒授業（指導）を起点に、学んだこと身に付けたことを発揮・定着・進化する場があり、さらに成長・変容を実感できる場の連動性、連続性をもった教育活動を展開する。

学　校　沿　革　の　略　歴

明治
14．6　室蘭常盤学校分校として創立
15.10　幌別学校と称し､独立開校する。
38．4　登別小学校分離
大正
6．4　高等科を併置、補習学校廃止
15．7　幌別青年訓練所併設
昭和
6．6　開校50周年記念式典
22．4　幌別小学校と改称
27．7　幌別西小学校分離
30．1　校舎焼失（幌別西小、幌別中で間借り授業）
30.11　校舎新築落成　校歌制定
45．4　幌別東小学校分離
56.10　開校100周年記念式典
59．4　言語治療教室開設
平成
5.12　新校舎改築工事完成
6．9　新校舎落成記念式典
9．2　胆振管内教育実践表彰受賞
10．2　北海道教育実践論文全文掲載
10．4　札内小学校と統合
11．3　北海道教育実践表彰受賞
13．9　開校120周年記念式典
14.11　体育館屋根・壁全面改修
15．4　読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰
17.11　第36回博報賞「国語･日本語部門」受賞
23．9　開校130周年記念児童集会
24．4　道教委「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校
11　体育館耐震化工事完成
27．3　平成26年度胆振管内教育実践表彰受賞
29．2　平成28年度北海道教育実践表彰受賞
30．1　平成29年度文部科学大臣優秀教職員表彰受賞
令和
2．4　学校力向上に関する総合実践事業地域指定中核校
外国語科専科開始
3.11　開校140周年記念動画公開
5．3　令和４年度文部科学大臣優秀教職員表彰受賞
令和４年度胆振管内教育実践表彰(団体・個人)受賞
6．3　令和６年度北海道教育実践表彰（個人）受賞
校舎予防改修工事が完了する。
7．4　幌別東小学校と統合

登別市立幌別西小学校



創立年月日	昭和２７年６月１日
所在地	登別市片倉町5丁目13番地
電話・ＦＡＸ	TEL 85－2364　Fax 85-2025
校長名	猪　子　雅　司
教頭名	加　藤　恭　子
児童生徒数	２４１名
学級数	普通１０　特別４　計１４学級
職員数	２２名
敷地面積	３５、５４４m^2

特色ある教育活動

・西陵中学校区小中一貫教育推進事業
・コミュニティ・スクール推進事業
・専科指導（3～6年理科、5・6年外国語）
・明日中等教育学校英語サポート（全学年）
・鬼っ子算数教室（４年生以上）
・世代間交流（２年）
・キウシト湿原学習（２年）
・登別温泉入浴体験学習（３年）
・PTAふれあい活動（親子清掃、全校レク）

研究主題

《子供の総合的な学力形成を図る「学びの循環づくり」西小プラスONE!》
通常学級
～主体的に学ぶ力を身に付けさせる授業を目指して～
特別支援学級
～一人一人が「分かった」「できた」を実感できる授業～

学校教育目標

心豊かでたくましく生きぬく
実践力のある人間の育成
○進んで勉強する子
○やさしく思いやりのある子
○くじけないでやりぬく子
○進んで体力づくりをする子

学校経営方針・今年度の重点

子どもの総合的な学力形成を図る「学びの循環づくり」
～西小プラスONE～

方針

１．【連携】＜保護者・地域と一体となり地域に根ざした教育活動の推進＞
２．【授業】「分かった」「できた」を実感し、楽しく学び合える学校＞
３．【協働】＜教職員が協働性を発揮し、互いに高められる学校＞
４．【気付き】＜教育環境に配慮した安全・安心な学校＞

重点

１．生命尊重や思いやり、豊かな心の育成
２．「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善及び教員の資質向上
３．特色ある教育課程の充実
４．健康増進と体力向上
５．特別支援教育の充実
６．基本的な生活習慣の定着
７．防災、安全教育の充実
８．共感的な子ども理解に基づく生徒指導の充実
９．教職員の専門性を高める研修の充実
10．学習環境の充実
11．働き方改革の推進
12．保護者、地域との連携
13．家庭・地域、関係機関との連携

学　校　沿　革　の　略　歴

昭和
26．8　幌別小学校来馬分校として発足
27．6　幌別西小学校として独立認可
33.10　屋内体育館落成
37．7　開校10周年記念式典
40.11　プール完成
52．4　通学区域変更により青葉小学校が分離
54．3　新校舎第1期工事完成
55．3　新校舎第2期工事完成
56．7　道Ｐ連会長表彰受賞、ＰＴＡ全国協議会会長表彰受賞（11月）
57．9　開校30周年記念式典
59．2　屋内体育館改築工事完了
60．8　三線校舎内部改築工事完了
62．4　情緒障害児学級新設
63．5　ベルマーク収集100万点を達成し表彰を受ける。
平成
3．6　西小シンボル[イチイの木二世]移植オアシスルーム完成
7.11　道立研究所研究指定校公開研究会
8.10　学校基本調査文部大臣表彰を受賞
11．9　トイレ水洗化工事完了
13．9　開校50周年記念式典
15.10　防犯灯設置
18.10　放課後児童クラブ開設
23.11　開校60周年記念式典開催
24．4　学校力向上に関する総合実践事業　近隣実践校指定
25．3　胆振管内パイロット校指定
26．4　コミュニティ・スクール開始
28．4　市小中一貫教育研究実践校（H29同）
30．1　平成29年度北海道公立学校等教育論文「全文掲載」
30．3　平成29年度胆振管内教育実践表彰
30．4　学校力向上に関する総合実践事業 実践校指定
地域連携研修　主体校
30．7　校舎耐震改修・外壁改修工事開始
令和
2．1　学校力向上事業実践指定校合同学校公開
2．3　渡り廊下改築工事完了
2．5　学級農園移設完了
2．6　令和２年度北海道ＰＴＡ連合会会長表彰
2.11　令和２年度租税教育推進校等表彰
日本ＰＴＡ全国協議会会長表彰
3．2　ＧＩＧＡスクール構想に係るＰＣ端末等導入
3.11　開校７０周年をお祝いする児童集会
優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰
4．4　登別市教育実践研究奨励推進校(R4～R5年度)
4．8　体育館照明ＬＥＤ工事
5．7　ボイラー煙突用断熱材撤去および新設工事
5．8　教室窓落下防止金具取付工事
6．4　登別市教育実践研究奨励校

登別市立鷲別小学校



特色ある教育活動

・ひなわしデー（地域・保護者の方の自由参観日）の実施(年２回)
・朝学習と「鬼っ子算数教室」による基礎・基本の確実な定着
・朝読書、学校司書による読書活動の推進
・「鷲別子ども見守りたい」による登校・下校の安全指導

創立年月日	明治２３年４月１日
所在地	登別市鷲別町４丁目３６番地２１
電話・ＦＡＸ	TEL 86-7011　Fax 86-2817
校長名	櫻　井　貴　志
教頭名	椎　名　　孝
児童生徒数	１８４名
学級数	普通７　特別３　計１０学級
職員数	２０名
敷地面積	２６，３３０m²

研究主題

「思考力・判断力・表現力」の育成
を意識した授業づくり
～言語化して表現する力を育む授業を目指して～

学校教育目標

豊かな心情をつちかい、活動力に満ちた
健康な心身の育成を図る

○よく協力し、思いやりのある子
○健康でねばり強い子
○自分で考え、正しく判断し、実践する子

学校経営方針・今年度の重点

学校経営の方針
「児童一人一人が笑顔で登校できる学校づくり」
・変化の激しい社会を生き抜く力を育む
・多様性を尊重し、個性を伸ばす
・すべての児童が居場所を感じられる学校

今年度の重点
1　確かな学力の定着
学びの土台作り／メリハリのある授業／タブレットの活用／算数科の学力向上
2　豊かな心を育む
道徳の授業の充実／読書環境の充実
3　健やかな体の育成
新体力テスト等の結果を踏まえた授業改善／基本的な生活習慣の定着と健康安全の保持増進
4　特別支援教育の充実
特別支援教育への理解と児童に対する適切な指導及び必要な支援／特別支援教育を推進する体制の整備
5　生徒指導の充実
児童に寄り添った生徒指導／いじめ・問題行動等を生まない風土の醸成／不登校を生まない学校づくり／関係機関等との連携強化
6　家庭・地域との連携
地域の教育資源の活用／学校の説明責任／他校種等との連携
7　教職員の専門性の向上と学校力の向上
専門性の向上／学校組織の活性化と仕事の効率化／教育公務員としての自覚と法令遵守の徹底

学　校　沿　革　の　略　歴

明治
15．8　常盤小学校鷲別分校として創立
10　幌別小学校鷲別分校に名称変更
19．4　戸数減少で廃校
23．3　幌別小学校鷲別分校として再開校することが決定される。
34．4　鷲別尋常小学校と称する。
昭和
10．4　鷲別尋常高等小学校と称する。
16．4　鷲別国民学校と改称される。
18．9　屋内体育館及び４教室増築
22．4　鷲別小学校と改称される。
35.10　開校７０周年記念式典
46．4　若草小学校（通学区分離）が分離開校
54.10　開校９０周年記念式典
60.10　学校プール完成
平成
元．5　開校１００周年記念式典
3．3　道教育庁生涯学習まちづくり百選に「鷲別子ども獅子舞保存会」が選定
4.11　胆振教育局研究指定公開研究会開催
8.11　胆振教育局研究指定公開研究会開催
11．9　コンピュータ室新設
13．4　学童ボランティア活動普及事業と協力校指定
情報教育推進協力校の指定
16．4　「子どもと親の相談員」活用調査研究指定
17．8　学校前花壇整備で日本道路協会より表彰
22．1　一線校舎トイレ洋式化完了
25．2　スキー授業開始
30．6　新校舎落成記念運動会
30．9　新校舎落成記念式典
30.11　新校舎落成・開校１３０周年記念及び平成29・30年度
胆振管内小・中学校教育実践研究奨励校
登別市教育実践研究奨励校公開研究会開催
令和
元.10　開校１３０周年記念学芸会開催
2.11　「絆づくりメッセージコンクール」にて胆振教育局審査員特別賞受賞
3.12　「絆づくりメッセージコンクール」にて胆振教育局奨励賞受賞
3．4　中一ギャップ問題未然防止事業推進校
4．4　中一ギャップ問題未然防止事業推進校
5．4　中一ギャップ問題未然防止事業推進校
7．3　体育館開放玄関スマートロック設置

登別市立富岸小学校



創立年月日	明治２９年５月１日
所在地	登別市富岸町２丁目１７番地４
電話・ＦＡＸ	TEL 86-6303　Fax 86-0904
校長名	小野島　　晶
教頭名	寺　沢　圭　司
児童生徒数	３４１名
学級数	普通１２　特別６　計１８学級
職員数	２５名
敷地面積	２９，８９１m^2

特色ある教育活動

・縦割り清掃（全学年）
・世代間交流（１年）
・畑の先生との栽培活動（２年）
・キウシト湿原での活動（３年・特支）
・アイヌ文化・ウポポイ見学（４年）
・スキー指導（５・６年）
・あったか富岸小運動（全学年）
・富岸小まつり（１１月）
・親子もちまき会（１月）
・地域及びＰＴＡによる登下校安全指導
・図書ボランティア活動

研究主題

学習を楽しいと感じ、自ら学び、自分の学びを表現する子の育成
～児童も教師もわくわくしながら主体的に学べる環境を目指して～

学校教育目標

○思いやりのある子
○深く考える子
○からだを鍛える子

学校経営方針・今年度の重点

■学校経営の方針
人とかかわり、つながり、自己発揮できる力を育む学校
○心力・知力・体力
○安全・安心・安定
○関係構築・コミュニケーション能力
■経営の指針
○創造性・協働性の発揮
○総合的な学校力の展開
○地域・保護者との連携・協働
■学校の基本姿勢
○ベクトルをそろえた教育力の最大化
○学び続け磨き合う専門職集団
○富小版地域とともにある学校
■教職員に向けたキーワード
○子供ファースト
○ウェルビーイング
○心理的安全性
■児童に育てる資質・能力
(徳)○思いやり、力を合わせる
　　○認め合い、つながる
　　○挨拶、言葉づかい
(知)○学習意欲を高める
　　○主体的に課題解決
　　○アウトプット、より良い考え
(体)○粘り強く努力
　　○進んで運動
　　○活力に満ちた生活
■学校経営の重点
○生徒指導
○校内研修
○特別支援教育

学校沿革の略歴

明治
29. 5　室蘭郡私立チリ別小学校分校として創立
33. 5　幌別郡公立富岸簡易教習所と改修独立
大正
 5. 3　鷲別小学校に吸収合併
11. 4　鷲別小学校付属富岸特別教授場として復校
昭和
 8. 4　富岸尋常小学校として独立
36.　校舎新築移転
51. 3　体育館新築落成
53. 4　校舎新築移転、通学区変更
60.10　開校９０周年記念式典
63. 9　カナダロバートランドル小と姉妹校提携
平成
 2.10　全道学級経営研究会･登別大会開催
 3. 3　学童ボランティア活動普及事業協力校指定
 3. 4　文部省「奉仕等体験学習研究推進指定校」
 5. 2　胆振教育局教育実践表彰受賞
　11　ＰＴＡが全国表彰を受賞
 7.10　開校１００周年記念式典
 9.12　北海道花いっぱい運動奨励賞を受賞
16.11　文科省「学力向上ﾌﾛﾝﾃｨｱｽｸｰﾙ」公開研開催
17. 2　胆振教育局教育実践表彰受賞
18. 2　北海道教育実践表彰受賞
19.11　登別市教育実践奨励校公開研究会開催
24. 8　校舎屋上・理科室床改修工事完了
26. 1　体育館耐震化改修工事完了
27.11　登別市教育実践研究奨励校
　　登別市・白老町地域連携研究主体校
　　胆振管内小中学校教育実践研究奨励校
　　開校１２０周年記念公開研究会開催
30. 4　登別市教育実践奨励校
30. 7　校舎耐震・外壁・屋上防水工事開始
30.10　校舎屋上防水工事完了
30.12　校舎耐震・外壁工事完了
令和
元.11　登別市教育実践奨励校公開研究会開催

登別市立登別小学校



創立年月日	明治２５年８月１０日
所在地	登別市登別本町３丁目２５番地２
電話・ＦＡＸ	TEL 83-1014　Fax 83-1423
校長名	上　渡　秀　一
教頭名	田　中　勝　久
児童生徒数	１２４名
学級数	普通６　特別３　計９学級
職員数	１４名
敷地面積	３７，１７３㎡

特色ある教育活動

・町内会の協力を得たふるさと農園実施
・児童会による、いじめ撲滅のための、一委員会一取組の活動
・外国語活動、国際理解教育の推進
・図書ボランティアによる読み聞かせ
・すもう学習の実施
・マーチングバンド（OMB）による活動
・学校裏山、グラウンドを利用したスキー学習
・地域のよさ、歴史、伝統、文化、観光、アイヌについて学ぶ、ふるさと教育

研究主題

算数の学びを楽しみ、共に考え、表現する力を育む
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通した、算数科における『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指して～

学校教育目標

丈夫な体と豊かな心をもって、意欲的にたくましく生きる子
○よく考える子（知）
○からだをきたえる子（体）
○なかよく助け合う子（徳）
○がんばりぬく子（意）

学校経営方針・今年度の重点

＜学校経営方針＞
「自分の未来を自律的に切り拓く子の育成」
～一人一人のよさや可能性を引き出す教育活動の推進～

＜学校経営のキーワード＞
共生 ○ダイバーシティ
○インクルージョン

協働 ○調整する力
○ウェルビーイングの向上

表現 ○かかわりを学ぶ力
○自己肯定感の高揚

継続 ○粘り強く継続して取り組む力
○努力することの大切さ

＜経営の重点＞
① 学校教育目標等の具現化の推進と心理的安全性に基づく協働体制の確立
② 社会に開かれた教育課程の実現と児童の主体的な学びを目指す教育の充実
③ 自立・自律・共生を目指す豊かな心と健やかな体を育む教育の充実
④ 専門職として学び続ける教員の資質向上を図る研修の充実
⑤ 家庭・地域・関係機関と連携・協働した信頼される学校経営の推進
⑥ 接続・連携・協働を意識した異校種・同校種間連携の推進
⑦ 効果的で質の高い教育活動の持続に向けた学校における働き方改革の推進

学　校　沿　革　の　略　歴

明治
25．8　幌別尋常小学校登別分校として創立
28．4　公立登別尋常小学校として改称・独立
38．4　登別温泉簡易教育場が本校より独立
44．2　蘭法華（現富浦地区）特別教授所開設
大正
2．2　蘭法華特別教授場を本校に合併
9．3　高等小学校併置認可
昭和
16．4　登別国民学校と改称
22．4　登別小学校と改称
27.11　胆振管内道徳研究会開催
36．9　開校70周年記念式典開催
45．　鉄筋コンクリート一線校舎新築
46．　鉄筋コンクリート二線校舎新築
53．8　文部省指定学校歯科保健活動開始
58.10　文部省指定１年次道徳研究会開催
61．6　家庭教育学級開設
62．7　土俵完成､土俵開き､相撲大会（９月）
平成
元.10　第一期校舎改修工事完了
2.10　第二期校舎改修工事完了
3.10　開校100周年記念式典開催
11．2　コンピュータルーム新設
14．3　胆振管内教育実践表彰受賞
15.10　北海道歯科保健優良校表彰STV賞受賞
18．4　コミュニティー・スクール推進事業調査研究校を受理
18.10　北海道歯科保健優良校表彰優秀賞受賞
19．4　登別温泉小学校との校区一体化
22．9　すもう飛翔櫓再建落成式
23.11　開校120周年公開研究会の実施
24.10　二線校舎一階に「登別児童クラブ」開設
25．7　耐震化のため体育館改修工事(～11月)
9　地震・津波想定三校合同避難訓練
26．7　飛翔櫓補修
10　北海道学校歯科保健優良校表彰優秀賞受賞
27.10　北海道学校歯科保健優良校表彰優秀賞受賞
27.11　登別市教育実践研究奨励校公開研究会
28.10　全日本歯科保健優良校表彰奨励賞受賞
29.10　全日本歯科保健優良校表彰奨励賞受賞
11　登別市教育実践研究奨励校公開研究会
30.11　北海道警察音楽隊による演奏会開催
12　全日本歯科保健優良校表彰奨励賞受賞
令和
元．7　校舎耐震補強・外壁改修・屋根改修工事開始
元.10　全日本歯科保険優良校表彰奨励賞受賞
2．3　校舎耐震補強・外壁改修工事完了
3．2　一人１台ＰＣ端末導入
10　北海道学校歯科保健優良校表彰優秀賞受賞
全日本歯科保健優良校表彰奨励賞受賞
11　令和２．３年度登別市教育実践奨励校公開授業開催
4.10　北海道学校歯科保健優良校表彰優秀賞受賞
全日本歯科保健優良校表彰奨励賞受賞
5.10　北海道学校歯科保健優良校表彰ＨＢＣ賞受賞
6.10　全日本学校歯科保健優良校表彰奨励賞受賞

登別市立若草小学校



創立年月日	昭和４６年４月１日
所在地	登別市若草町１丁目１番地２
電話・ＦＡＸ	TEL 0143-86-7513　Fax 0143-86-5440
校長名	平　石　崇　広
教頭名	菅　野　直　樹
児童生徒数	２８８名
学級数	普通１１　特別支援４　計１５学級
職員数	２５名
敷地面積	２５，７０７㎡

特色ある教育活動

- タブレット端末やデジタル教材などICTを活用した授業改善学習の推進
- 鷲別中学校区での9年間を見通した小中一貫教育の推進（小小連携・小中連携）
- 自動車学校等と連携した交通安全教室
- 年間を通じ、短縄や休み時間を活用した児童の体力づくりの日常化
- なかよし会によるリングプル収集と車椅子の寄贈
- ＰＴＡ図書館司書が連携した読書活動の推進
- 学校運営協議会とＰＴＡが一体となった若草小学校コミュニティ・スクール
- 地域と連携したふれあい農園での１・２年生の栽培活動
- 登別市の素材を生かしたふるさと教育の推進
- 教育委員会と連携した「鬼っ子算数教室」の実施
- 町内会との合同津波避難訓練・下校指導
- 外部講師による全学年での食育授業の実施
- 外部講師による福祉の体験学習
- ＨＰでの教育活動の日常的な情報発信

研究主題

『自ら考え共に学びあう子の育成』
～個別最適なグループ研修を通して～
グループ研究①　学習意欲を高める
グループ研究②　協働的な学び
グループ研究③　表出・表明・読解力
グループ研究④　基礎基本の定着
グループ研究⑤　自力解決・自己調整

学校教育目標

知徳体の調和のとれた
人間性豊かな子どもをはぐくむ
○たくましい子‥‥やる気（創造的態度）
○考　え　る　子‥‥やる力（創　造　力）
○健　康　な　子‥‥やる人（創造的人格）

学校経営方針・今年度の重点

【方針】
「保護者・地域との『共育』と中学校区の連携により
笑顔・わくわく・やさしさいっぱいでウェルビーイングな学校づくりを目指して」
【αとは、コロナを超えて再構築すること】
◇目指す学校像 4つのW（わくわく）のある学校＋αウェルビーイング
子どもにとって**わくわく**する魅力ある学校（成長の実感）
保護者にとって**わくわく**する魅力ある学校（安心感）
地域にとって　**わくわく**する魅力ある学校（連帯感）
教職員にとって**わくわく**する魅力ある学校（充実感）
◇目指す子ども像 4つのW（わ）＋αレジリエンス（しなやかさと強さ）
＋α自己調整力　＋α目指す15歳の姿「受け入れあい支え合い高め合う生徒」
わかるまで　考えを伝え合い、夢中で学習や活動に取り組む子（知）
わかさいっぱい　元気よく心と体を磨き自分を輝かせる子（体）
わをたいせつに　思いやりをもち、みんなで心と心をつなげる子（徳）
われをたいせつに　自分を大切にできる子（徳）
◇教師の基本姿勢として（授業） 4つのW（わ）＋αデジタルとアナログのベストミックス
わくわくどきどき　目標が明確で、見通しをもたせる授業
わかりやすく　考える楽しさを味わわせる問題解決的な授業
わいわいしながら　練り合い高め合う授業
わかるまで　定着・まとめ・振り返りを確実に行う授業
◇教師の基本姿勢として（組織） 4つのW（4WD）＋α・4C＋α　βメンタリティ
フット**ワーク**　報告連絡相談　前始末　率先垂範
ネット**ワーク**　迅速誠実丁寧　協働
チーム**ワーク**　共通理解・共通指導　凡事徹底　美点凝視
ロード**ワーク**　学び続ける姿勢　挑戦する姿勢（βメンタリティ）
【教育活動の重点】
重点　１：確かな学力の定着
重点　２：豊かな心の育成
重点　３：健やかな体の育成
重点　４：特別支援教育の充実
重点　５：他校種・地域と連携した教育活動の充実
特別重点：安心・安全で、通いたくなる学校
【経営活動の重点】
重点　０：児童と向き合うための働き方改革の推進
重点　１：教職員の資質向上

学　校　沿　革　の　略　歴

昭和
46. 4　若草小学校創立
5　父母と先生の会発足
10　屋内体育館完成
11　開校落成記念式典挙行
48. 8　プール完成
54. 3　胆振管内教育実践表彰を受ける。
55.10　開校10周年記念式典挙行
56. 8　大雨により被害を受ける。
58. 3　新校舎増築完成
平成
10　開校20周年記念式典挙行
7. 8　白石市豆記者訪問事業実施
9. 8　３階和室新設
12.11　開校30周年記念式典挙行
13. 1　コンピュータインターネット配線完了
14. 3　校舎大規模改修工事着工
15.12　校舎大規模改修第１期工事終了
16.10　校舎大規模改修第２期工事終了
17. 1　校舎全面使用開始
17. 3　特別支援学級２学級認可
22. 6　開校40周年記念運動会挙行
23. 3　東日本大震災への募金活動（なかよし会）
26. 6　学校運営協議会（コミュニティスクール）発足
26.11　平成25・26年度胆振管内小・中学校教育実践研究奨励校 指定
平成25・26年度登別市教育実践研究奨励校指定公開研究会開催
27. 4　平成27・28年度登別市教育実践研究奨励校指定（道徳科研究）
29. 5　平成29・30年度登別市教育実践研究奨励校指定（道徳科研究）
29. 8　平成29・30年度胆振管内小・中学校教育実践研究奨励校指定（道徳科研究）
31. 1　平成30年度北海道道徳教育推進校事業推進校における授業公開・実践発表
令和
元.12　標準学力調査（CRT）実施
2. 2　新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業（3月24日まで）
2. 3　分散登校実施（１～５年　３回、６年　２回）
2. 4　新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業（5月17日まで）
2. 5　分散登校実施（5月31日まで）
3. 1　クロームブック搬入
3. 3　保健室エアコン設置
3.10　開校50周年記念看板設置
4. 1　令和2・3年度登別市教育実践研究奨励校
令和2・3年度胆振研究所研究奨励校指定
開校50周年記念公開研究会（第19回）
4.12　開校50周年記念式典（感染拡大防止のため中止）
5. 5　令和5・6年度登別市教育実践研究奨励校指定（算数科研究）
5. 8　白石市豆記者交流事業実施（児童３名訪問）
6. 7　体育館床改修工事
6. 8　校地内旧教員住宅除却工事
6.11　令和5・6年度登別市教育実践研究奨励校指定公開研究会開催

登別市立青葉小学校



創立年月日	昭和５２年４月１日
所在地	登別市青葉町３番地３
電話・ＦＡＸ	TEL 85-1477　Fax 85-1249
校長名	北　尾　　稔
教頭名	林　　毅　年
児童生徒数	２４４名
学級数	普通１０　特別３　計１３学級
職員数	２０名
敷地面積	３４，６２６m^2

学校教育目標

『豊かな人間性をめざし心身ともに健康で自主的・創造的な子どもを育成する』

○強い子ども(体)
　心身共に健康で頑張りぬく子ども
○明るい子ども(徳)
　情操豊かで助け合いはげまし合う子ども
○考える子ども(知)
　進んで学び、きり拓いていく子ども

学校経営方針・今年度の重点

「自他ともに大切にできる子どもの育成」
～多様な人とのかかわりを通して～

★学校経営上の重点
1　学校教育目標等の具現化の推進と心理的安全性に基づく協働体制の確立
2　社会に開かれた教育課程の実現と児童の主体的な学びを目指す教育の推進
3　自立・自律・共生を目指す豊かな心と健やかな体を育む教育活動の充実
4　専門職として学び続ける教員の資質能力向上を図る研修の充実
5　家庭・地域・関係機関と連携・協働した教育活動の充実
6　接続・連携・協働を意識した異校種・同校種間連携の推進
7　効果的で質の高い教育活動の持続のための学校における働き方改革の推進

★教育活動における指導上の重点
1　個性を生かし、主体的に学ぶ子の育成
2　豊かな心をもち、思いやりのある子の育成
3　強い心と体を目指し、進んできたえる子の育成
4　家庭・地域等との連携を図った教育活動の充実

特色ある教育活動

・ふれあい農園による栽培活動
・リングプルなどの回収活動
・キウシト湿原を活用した環境学習
・朝読書、ブックサポーターによる読み聞かせ
・外部講師によるクラブ活動
・地域人材を活用した放課後学習サポート
・世代間交流などの豊かな体験活動
・地域の牧場斜面を活用した冬の雪遊び

研究主題

確かな学力や学ぶ楽しさにつながる、
個別最適な学びと協働的な学びの一体化

学　校　沿　革　の　略　歴

昭和
52. 4　幌別西小学校より分離創立
52.10　校舎落成記念式典
55. 5　グランドに桜苗木を植樹
55. 9　「青葉の森」開き
57. 7　埋蔵文化財発掘体験学習
61. 7　開校１０周年記念式典
62.12　青葉スケートリンク第１回造成活動開始
平成
元. 3　ギネス「長縄跳び９０人」世界新記録樹立
6. 3　胆振管内教育実践表彰受賞
8.10　開校２０周年記念式典
11. 8　コンピュータ室完成（１４台設置）
12. 9　市民憲章花壇コンクール最優秀賞受賞
13.11　インターネット光ケーブル引込み校内LAN工事完成
16. 3　北海道PTA広報誌コンクール審査員特別賞受賞
16.4　特別支援学級（情緒障害）開設
18. 3　北海道PTA広報誌コンクール審査員特別賞受賞
18.12　開校３０周年記念式典
21. 1　児童用トイレ完全洋式化
22.10　体育館耐震化改修工事完了
24. 9　東非常階段全面改修工事完了
25. 8　屋上フェンス災害復旧工事完了
26. 4　学校運営協議会設置（コミュニティ・スクール）
26. 8　鉄棒新設工事完了
27.11　屋上防水・耐震改修工事完了
27.12　保健室、職員・児童玄関改修工事完了
28. 1　校舎外壁工事完了
28. 3　西非常階段、校長室、PTA会議室耐震壁工事完了
28. 4　視聴覚室耐震壁工事完了
28. 6　ふれあい坂舗装補修工事完了
28. 8　図書室・家庭科室・２の２耐震壁工事完了
28.11　開校 40 周年を祝う会
　職員室・放送室・印刷室耐震壁工事完了
29. 2　４の１耐震壁工事完了
　青葉スケートリンク 30 周年記念祝賀会
29. 3　階段転落防止ネット改修工事完了
30. 1　スキー学習（5.6 年生）
30.11　グラウンドの亀裂修復工事完了
令和
元. 7　姉妹都市交流「ふるさと豆記者」白石市へ
3. 8　ふれあい坂補修工事完了
5. 5　遊具（ブランコ）取替設置
5. 8　体育館 LED 取替設置
6.10　児童クラブ青葉小学校内に開設

登別市立幌別中学校



創立年月日	昭和２２年５月１日
所在地	登別市千歳町３丁目１番地３
電話・ＦＡＸ	TEL 85-3111　Fax 85-3112
校長名	中　島　英　治
教頭名	武　田　成　永
児童生徒数	１４０名
学級数	普通６　特別２　計８学級
職員数	１８名
敷地面積	３７，３８１m²

特色ある教育活動

・少人数習熟度別学習、放課後学習会の実施
・いじめ根絶の取組（全校によるＤＢＡ集会）
・学校祭における縦割り部門活動（演劇・展示・行灯）、市内各所への行灯展示
・学年別による防災学習
・やりとり帳の活用（生活ノート）
・朝の取組（朝読書及び朝学習）
・生活専門委員会によるあいさつ運動（通年）
・ボランティア生徒による地域貢献活動

研究主題

自ら学び、意欲的に学習する生徒の育成
～主体的・対話的で深い学びの実現に向かう授業実践～

学校教育目標

1　体が丈夫で、進んで働く人
2　はきはきと行動し、最後までやりぬく人
3　豊かな心で、新しいものを生み出せる人
4　心のこもったことばづかいや行いのできる人
5　互いに信じ合い、みんなの役に立つ人

学校経営方針・今年度の重点

≪令和７年度　重点目標≫
「自ら考え、意欲的に学習する生徒」

≪学校経営の基本姿勢≫
1　教育目標及び重点目標の実現を目指した組織的な取組
2　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
3　発達を支える生徒指導の充実

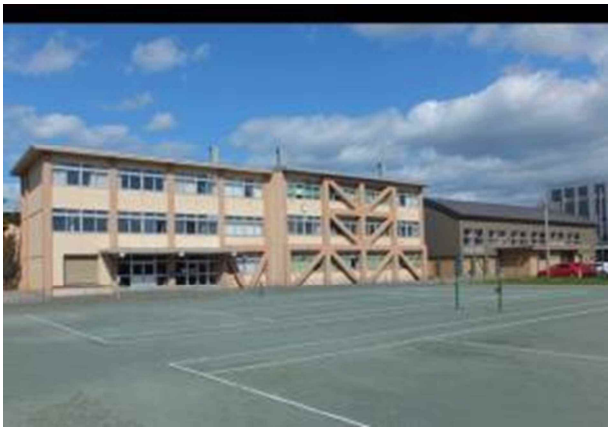
＜経営上の重点＞
○　学力の向上を目指した授業改善及びＩＣＴの活用
○　「働きやすさ」と「働きがい」のある業務の推進

＜指導上の重点＞
◎　質の向上を目指した教育活動の計画・実施
［質の向上を目指した教育活動の具体］
(1) 教科
自ら学び解決する力、他者との協働により創造したり理解を深めたりする力を育てる学習指導
(2) 道徳
「考え、議論する道徳」を目指した道徳科の授業
(3) 総合的な学習の時間
学校や地域の特性を活かした総合的な学習の時間の推進
(4) 特別活動
生徒の自発的な活動が効果的に展開される特別活動の推進
(5) 健康・安全指導
自らの健康・安全を図る教育活動の推進
(6) 生徒指導
個の実態を踏まえた配慮の必要な生徒への組織的な対応

学　校　沿　革　の　略　歴

昭和
22. 5　幌別小学校の校舎一部を借り、設置認可
「幌別村立幌別中学校」
26. 7　千歳町132番地（現在地）に新校舎落成
28.10　校舎前グランド新設、校歌制定
32. 9　開校10周年記念式典
36. 4　町名変更「登別町立幌別中学校」
42. 4　特殊学級認可
45. 8　市制施行「登別市立幌別中学校」
49. 4　西陵中学校分離
52.10　開校30周年記念式典
59.10　文部省指定道徳教育協同研究会開催
60.11　文部省指定生徒指導研究会開催
62.11　校舎改修第１期工事完成
63. 8　校舎改修第２期工事完成
平成
2. 9　文部省指定道徳教育研究会開催
3. 2　胆振管内教育実践表彰受賞
4.10　「社会を明るくする運動」法務大臣より感謝状
7. 2　北海道教育実践表彰受賞
8. 2　新屋内体育館竣工
9.11　開校50周年記念式典
10. 4　札内中学校と統合
13.10　胆振おやじサミットを主催
15. 8　「おやじの会」日本ＰＴＡ全国協議会表彰及び北海道ＰＴＡ連合会表彰受賞
16.11　韓国教育視察団来校
26.10　文部科学省　土曜授業推進事業指定
令和
3. 3　校舎耐震化工事終了
5. 4　令和５年度学校力向上に関する総合実践事業・指定校（北海道教育委員会）
6. 4　令和６年度学校力向上に関する総合実践事業・指定校（北海道教育委員会）
6. 4　令和６年度働き方改革推進事業・指定校に準ずる学校（北海道教育委員会）
6. 4　令和６年度生徒の英語力向上推進事業・実践指定校（北海道教育委員会）
6. 8　吹奏楽部Ｃ編成・３年連続日胆地区予選金賞により３年連続北海道吹奏楽コンクール出場（２年連続銀賞受賞）

登別市立鷲別中学校



創立年月日	昭和２２年５月１日
所在地	登別市鷲別町４丁目３６番地６
電話・ＦＡＸ	TEL 86-7950　Fax 86-7961
校長名	毛　利　憲　二
教頭名	小　林　孝　信
児童生徒数	２５１名
学級数	普通８　特別４　計１２学級
職員数	２３名
敷地面積	２８，９０４m^2

特色ある教育活動

・いじめ悩みアンケートを毎月実施し、教育相談を通じた早期発見と早期対応を徹底
・チームいちばん星を招いた全校道徳や地域人材の積極的な授業への活用
・地域ボランティアによる下校時の安全パトロール（学校運営協議会との協働体制）
・鷲別中学校校区小中一貫教育（校区小学校との連携事業）の充実
・本校卒業生、地元専門学校協力によるキャリア教育の充実
・ふれあいDAYの設定（1日間）（保護者・地域の方への授業公開）
・ICT、一人一台端末を活用した授業や家庭学習、各種アンケート、健康調査等の実施
・複数顧問による部活動指導

研究主題

「学び合い」を通して、受け入れ合い、
支え合い、高め合う生徒の育成
～協働的な学びの場面設定を通して～

学校教育目標

○健康で明るい人
○情操豊かな人
○勤労意欲の強い人
○真理を愛する人
○礼儀正しい人

学校経営方針・今年度の重点

【校区で目指す 15 歳の子ども像】
『受け入れ合い　支え合い　高め合う生徒』
～互いの考えや意見を尊重した発言・行動を目指して～
【育成を目指す資質・能力】
「表明力」「挑戦心」「協働性」
【学校経営の基本方針】
『子どもの命を守り、社会に出たときに活躍できる生徒の育成』
（組織運営）
・協働組織体制の確立・課題の可視化と実現可能な目標設定・日常業務や教育活動の改善・検証改善サイクルの確立と改善
（カリキュラムマネジメント）
・育成を目指す資質能力の明確化・教科横断的な視点に立った教育課程・学校内外の人的物的資源の有効活用・柔軟に対応できるカリキュラムの編成
【学校経営の重点】
(1) 生徒の成長が実感できる資質・能力の向上
(2) 生徒の学びや成長を支える家庭・地域・校区小学校との連携・協働
(3) 学校・教職員の信頼を高める教員の人材育成
(4) 「働きやすさ」と「働きがい」を両立する働き方改革の推進

学　校　沿　革　の　略　歴

昭和
22. 5　鷲別小学校の一部を借り、設置認可
24.12　新校舎（現在地）完成
25. 1　新校舎使用開始、新校舎落成式
32. 5　開校１０周年記念式典
38. 8　新校舎第１期工事完成
41. 8　学校プール完成
42.12　新校舎完成 鉄筋３階建て
45.10　屋内体育館完成
52. 1　管理棟新築完成
　 9　開校３０周年記念式典
54. 2　視聴覚教室改修工事完成
58. 4　緑陽中学校へ一部生徒分離移籍
62. 8　プール撤去
平成
 5. 6　コンピュータ室完成
 10　和室（潮騒ルーム）完成
 9.10　開校５０周年記念式典
 11　胆振教育局指定公開研究会開催
12. 4　教育相談室電話設置
15.10　税の作文コンクール学校賞受賞
17.10　２．３校舎ＦＦストーブ取替え工事完成
18. 3　校舎のバリアフリー化完成
24. 8　３線校舎女子トイレバリアフリー化
27. 3　校舎耐震改修工事完成
28.11　胆振管内小・中学校教育実践研究奨励校教育実践発表会
令和
 2. 2　登別市教育実践研究奨励校研究会
 4.10　登別市教育実践研究奨励校研究会
 5. 1　全国いじめ問題子どもサミット出席
 5. 4　体育館ステージ一文字幕設置（同窓会寄贈）
 6. 1　第５１回中学生作文コンクール学校賞受賞
6.12　生徒玄関ストーブ設置

登別市立登別中学校



特色ある教育活動

・「ふるさと学習」の一環として地獄まつりへの参加、郷土芸能「熊舞」「鬼みこし」の取組、登別市観光交流センター「ヌプル」での事前公演活動
・全校生徒による町内クリーン作戦
・幼保小中連携（防災、小中合同研修会、キャリア教育等）
・地域（町内会）とＰＴＡによるあいさつ一声運動交通安全指導、防犯巡回
・ふれあいデーにおける地域人材を活用した講演会等の実施
・生徒会主催によるいじめ撲滅集会の実施

創立年月日	昭和２２年５月１日
所在地	登別市登別本町１丁目１番地１
電話・ＦＡＸ	TEL 83-1029　Fax 83-1929
校長名	横　山　康　彦
教頭名	村　井　淳　一
児童生徒数	５４名
学級数	普通３　特別１　計４学級
職員数	１２名
敷地面積	３０，４６７m^2

研究主題

「日々の授業の質的改善」
～全教科を通じた表現力の向上に向けた授業改善～

学校教育目標

〇すすんで学び　正しく判断する
〇命を大切にし　心身を鍛える
〇思いやりをもち　厳しさに耐える

校訓　：　清く　明るく　大らかに

学校経営方針・今年度の重点

【学校経営基本方針】
子どもの命を守り、社会に出たときに活躍できる生徒の育成
【本年度の重点教育目標】～目指す生徒の姿～
心身ともに健康で、夢の実現に向けて粘り強く努力し続ける生徒

【目指す学校像】
・安全・安心な学校
・楽しく活気のある学校
・地域に信頼される学校
【目指す生徒像】
・自分の考えを深め、表現できる生徒
・自他を大切にし、思いやりを持つ生徒
・何事にも挑戦し、やり抜く生徒
【目指す教師像】
・経営参画意識を持ち、組織として協働する教師
・生徒とともに汗を流す教師
・教職に対する強い情熱を持ち、生徒の力を引き出せる教師

学　校　沿　革　の　略　歴

昭和
22. 5　設置認可　開校式
24. 5　新校舎落成（木造独立校舎）
30. 7　体育館落成
32. 9　開校１０周年記念式典
38. 7　新校舎落成(鉄筋コンクリート２階建)
42.10　開校２０周年記念式典
45. 2　教育実践優良校として道教委表彰受賞
53. 9　文部省指定生徒指導研究推進校として文部省より感謝状を受ける。
57.11　胆振教育局指定教育課程研究会開催
59.10　文部省指定「道徳教育協同研究推進校」として研究会開催
63.10　全道道徳研究会登別大会授業公開
平成
3.11　校舎大規模改造工事平成３年度分終了
4.11　校舎大規模改造工事平成４年度分終了
6.11　体育館大規模改造工事完了
9.11　開校５０周年記念式典
14. 6　漁港清掃で北海道漁港漁場協会より表彰
15. 9　温泉中学校との交流を開始
16. 4　温泉中学校との統合による教育活動開始
18.11　市教育実践奨励校公開研究会
23.10　体育館耐震化工事完了
26. 4　コミュニティスクール設置
28. 7　平秀里様より吹奏楽部に楽器の寄贈
28. 7　ニッセイ財団より熊舞衣装助成を受ける
29.10　平秀里様より吹奏楽部に楽器の寄贈
30. 1　校舎耐震改修工事完成
令和
2.12　タブレットＰＣ用キャビネット設置
3. 2　タブレットＰＣ搬入
3.10　市教育実践奨励校公開研究会
5. 6　子ども熊舞保存会の活動が国際ソロプチミスト登別支部から認証を受け、Sクラブに入会

登別市立西陵中学校



特色ある教育活動

・総合的な学習の時間【１年】郷土学習　【2年】生き方学習【3年】創作活動
・地域・ＰＴＡ合同の交通安全挨拶運動
・外部人材の活用(誕生学、携帯・スマホ講座等)
・小中一貫教育推進協議会（年３回）の開催
・小中地域合同避難訓練(隔年)の開催
・ＰＴＡ主催による合格祈願「大福」配布
・学校司書を中心とした読書活動の推進

創立年月日	昭和４９年４月１日
所在地	登別市片倉町５丁目12番地１
電話・ＦＡＸ	TEL 85-5041　FAX 85-5085
校長名	寺　田　　環
教頭名	浅　田　慎　市
児童生徒数	１１５名
学級数	普通４　特別２　計　６学級
職員数	１４名
敷地面積	２２，８６９m^2

研究主題

「自ら考え、他者と高め合い、学びを深める生徒の育成」～豊かな学びにつながる授業改善を通して～

学校教育目標

「英知・健康・情操・意志」
○正しい判断力と豊かな知性をもつ人
○健康な体とたくましい行動力をもつ人
○思いやりの心と寛い友情をもつ人
○ねばり強い根性とくじけない心をもつ人

学校経営方針・今年度の重点

＜重点教育目標＞
「共に学び　高め合うこと」を意識した教育活動の推進
【目指す生徒像】
自ら考え、自ら判断し、自ら行動する生徒
【目指す学校像】
笑顔と活気にあふれる学校

＜経営上の重点＞
1　心理的安全性と達成感・充実感・成長感を意識した働き方改革の推進
2　創意工夫ある教育課程の編成と教育活動の推進
3　特別活動、特別支援教育、生徒指導の充実
4　教師の専門性や指導力を高める研究・研修の充実
5　家庭や地域、関係機関と連携した「地域とともにある学校づくり」の推進
6　危機管理体制の強化と危機管理意識の高揚

学　校　沿　革　の　略　歴

昭和
49. 4　設立開校
49.12　体育館一部完成
50. 2　開校落成記念式典
51.11　体育館増設工事完成
58.10　開校１０周年記念式典
62.10　胆振管内進路指導研究会開催
平成
4.11　胆振教育局指定(教科指導)研究会開催
5.10　開校２０周年記念式典
6.10　学校花壇全国表彰受賞
7.11　胆振教育局指定(教科指導)研究会開催
8. 8　体育館大規模改修工事竣工
12. 3　胆振管内教育実践表彰受賞
12.12　第１期耐震補強校舎改修工事完成
13. 2　北海道教育実践表彰受賞
13.10　第２期耐震補強校舎改修工事完了
15. 9　開校３０周年記念式典
24. 9　体育館耐震化工事完了
令和
元.11　登別市教育実践研究奨励校公開研究会開催
2. 2　新型コロナウイルス感染症拡大
2. 4　42日間の臨時休業（長期休業日の短縮）
3. 2　wi-fi環境整備、1人１台端末配備
3.12　学びの保障にかかる保健室へのエアコン設置
5. 6　開校50周年記念体育祭開催
5. 7　体育館LED照明工事
5. 9　開校50周年記念学校祭開催
6. 3　子供の読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰
6.11　登別市教育実践研究奨励校・胆振教育研究所研究委託校公開研究会開催

登別市立緑陽中学校



特色ある教育活動	・いじめを許さない生徒の活動 ・生徒会、学年委員会を中心とした生活向上活動 ・地域と協働して行う職業体験学習 ・外部機関と連携した道徳教育 ・縦割り活動による学校祭の実施

創立年月日	昭和58年４月１日
所在地	登別市富岸町１丁目11番地１
電話・ＦＡＸ	TEL 85-5409　Fax 85-5433
校長名	永　瀧　幸　治
教頭名	山　上　　崇
児童生徒数	２９５名
学級数	普通９　特別３　計１２学級
職員数	２５名
敷地面積	５２，２４０m^2

研究主題	生徒一人一人を主語とした授業づくり ～生徒が自己調整しながら学びを進め、自立した学習者となるための指導方法を目指して～

教育目標	○豊かな知性を育て真理を求める人 ○美しい心情を育て思いやりのある人 ○強い意思を育て責任をもってやり抜く人 ○健康な心と体を育て明るくたくましい人

学校経営方針・今年度の重点

【目指す生徒像】
①自ら考え・自ら動く生徒
②人を支える生徒
③諦めない生徒

【今年度アプローチポイント】
①自己調整力の伸長を通して、夢や目標をもち努力を続ける力の育成
②自己調整力の伸長を通して、規則正しい生活を送る力の育成
③自分のよさに気づき、伸ばす力の育成

【指導の重点】
(1)確かな学力の育成
A 基礎的な知識を身につける
B 他者とのかかわりの中で高め合い深め合う
C 学んだことを次の課題や生活の場で生かす
(2)豊かな心の育成
D 基本的な生活習慣を身につける
E お互いの考えを深く理解し合う
F 仲間と協力してよりよい生活を築く
(3)健やかな体の育成
G 健康や命を守る知識・技能を身につける
H 仲間と力を合わせて健康に過ごす
I スポーツマンシップを日常に生かす

【経営の重点】
(1)学習指導
J 個別最適な学びと協働的な学びを実現する
(2)生徒指導
K 生徒の心に寄り添った生徒指導を実現する
(3) 危機管理
L 信頼される学校を実現する

学　校　沿　革　の　略　歴

昭和
52.　校地決定
54.　校地造成
57.　校舎完成、体育館完成
58. 4　設立開校
　11　落成記念式典
平成
 4.11　開校１０周年記念式典
 7. 9　コンピュータ２１台配置
10. 8　全教室温風ストーブ設置
11. 4　特殊学級（知的障害）開設
　6　「大西左友吏」ちゃん文庫開設
12. 8　コンピュータ20台更新･校内LAN設置
13.11　かんぽ作文コンクール道知事賞受賞
14.11　開校20周年記念式典
15.11　かんぽ作文コンクール北海道支社長賞受賞
16. 4　特殊学級（肢体不自由）開設
　11　かんぽ作文コンクール北海道支社長賞受賞
17.10　第4回北海道中学校壁新聞コンクール準大賞受賞
　12　税のポスター北海道教育委員会教育長賞受賞
18.11　第5回道央地区中学校壁新聞コンクール
　最優秀賞･優秀賞2年連続受賞
19.11　道吹奏楽コンクール銀賞
22. 4　図書ボランティア活動開始
24. 4　ボランティア部　第16回ボランティア
　スピリットアワード　コミュニティ賞受賞
25.12　校舎2階トイレ様式化、障害者用トイレ設置
26. 8　体育館暖房機器設置
27. 8　バドミントン部全国大会出場
28. 8　男子陸上部100m×4R全国大会出場
29.10　登別市教育実践奨励校公開研究会
30. 8　バドミントン部全国大会出場
30.10　人権作文札幌地区大会奨励
令和
元. 8　バドミントン部全国大会出場
 3. 8　バドミントン部・陸上部全国大会出場
 4. 8　ソフトテニス（個）・陸上（個）・柔道（個）中体連全国大会出場
 5.8　陸上（個）中体連全国大会出場

北海道登別明日中等教育学校



創立年月日	平成１９年４月１日
所在地	登別市片倉町５丁目１８－２
電話・ＦＡＸ	TEL 0143-85-0351　Fax 0143-85-0353
校長名	松　田　卓　也
副校長	粟　島　はるか
教頭名	兼　平　裕　子
生徒数	４２６　名
学級数	１２　学級
職員数	４４　名
敷地面積	校　舎　42,738.38m^2 寄宿舎　3,493.47m^2

特色ある教育活動

○本道で唯一の道立中等教育学校
○６年一貫の教育課程の実施
○国際理解教育、外国語教育の重視
○多様な体験活動の促進
○地域や北海道のよさを学ぶ学習活動の促進
○異年齢生徒の交流の促進
○保護者・地域と連携した教育活動の促進

研究主題

〔校内研修の３つの視点〕
○カリキュラム・マネジメントの推進
○チームとしての学校力向上
○教員の資質向上

学校教育目標

学校・家庭・地域社会が連携し、中高一貫教育を行い、「高い知性」、「豊かな人間性」、「健康な心身」「郷土愛と国際性」を身に付けた本道の将来を担う人材の育成を目指す。

学校経営方針・今年度の重点

【方針】
(1) 中等教育学校の特色を生かした「ここでしかできない教育」の推進
特色ある教育課程を編成・実施し、６年間を見越した計画的・系統的な教育活動を展開する。
(2) 計画的・系統的な教育活動を推進するための組織運営体制の確立
教育・教科の専門性に基づく、個々の創造性や持ち味を活かした、組織的・協働的な教育活動を展開する。
(3) 学力向上に資する教育活動の充実
学力、学習意欲、自己肯定感の向上を目指す組織的な教育活動の確立に向けて教職員のスキルを向上させる。
(4) 開かれた学校づくりの推進
ホームページにより本校の教育活動を継続的に発信し、地域の教育資源、外部人材を活用した教育活動を行う。
(5) 信頼される学校づくりの推進
評価結果を検証し、スクール・ポリシーに基づく魅力ある学校づくりに向けた改善策を検討する。
(6) 魅力ある職場環境の確立
教職員が同僚性を高め、学校としてのチームワークのよさを教育の質の向上につなげる。

【重点】
(1) 個性や能力の伸長に向けた、きめ細やかな学習指導の充実
(2) 生徒の多様化に対応した健康・安全教育や教育相談活動の充実
(3) 地域と保護者との連携を重視した教育活動の充実
(4) 国際理解・グローバル教育、外国語教育などを通し、外国語（英語）による思考力・判断力・表現力の育成
(5) ６年間を見通した計画的な進路指導の充実
(6) 年齢の異なった生徒による相互交流とボランティア活動、自然体験活動、芸術鑑賞等、異年齢集団による活動や本物に触れる活動の重視

学　校　沿　革　の　略　歴

平成12年６月
・北海道教育委員会が策定した「公立高等学校配置の基本指針と見通し」において、「生徒の学校選択の幅を広げる観点から教育長期総合計画の後期実施計画期間内において連携型の実践を踏まえ、高校の再編などを行う中でモデルとなる学校を設置できるよう検討する～」と明記
平成16年８月・校舎新築工事着工
平成18年４月
・北海道登別明日(あけび)中等教育学校の開校に向け、開校準備事務室を登別高等学校内に設置
平成18年11月・校舎新築工事完成
平成19年４月・開校
平成19年４月・開校式並びに第１回入学式の挙行
平成21年10月・ユネスコスクールの加盟承認
平成22年３月・第１回卒業証書授与式の挙行
平成23年７月・北海道教育委員会「確かな学力を育む高校教育推進事業」実践研究推進校に指定（～平成24年度）
平成23年10月・第１回「明日の日」（教育研究成果発表会
平成24年７月
・「北海道グローバル人材育成プログラム」推進校に指定
平成25年６月
・北海道教育委員会「北海道高等学校学力向上推進事業」ベーシックモデル協力校に指定（～平成27年度）
・同事業の土曜日授業調査研究校に指定（～平成26年度）
平成26年４月
・文部科学省「スーパーグローバルハイスクール」指定校に指定（～平成３０年度）
平成26年４月
・文部科学省「土曜授業推進事業」指定校に指定
平成27年８月
・北海道教育委員会「課題解決に向けた主体的・協動的な学び（アクティブ・ラーニング）推進事業協力校に指定
平成28年10月・10周年記念式典の挙行
平成30年４月
・国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程研究指定校事業（～令和元年度）
平成31年３月・ＳＧＨ最終成果報告会の開催
平成31年４月「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）」指定校に指定（～令和３年度）
令和３年４月「スーパーグローバルハイスクールネットワーク」参加校に指定（～令和５年度）

北海道登別青嶺高等学校



創立年月日	平成17年４月１日
所在地	登別市青葉町42－１
電話・ＦＡＸ	TEL85-8586　　Fax85-8585
校長名	奥　田　智　紀
教頭名	佐　藤　英　明
生徒数	２９４名（令和７年５月１日現在）
学級数	９学級
職員数	３４名
敷地面積	50,353.94m^2

スクール・ミッション

1　生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し、個々の進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成

2　地域唯一の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来を創っていく生徒の育成

3　自他を尊重し思いやりの心をもち、義務と責任を重んじ的確に判断し、主体的に行動できる生徒の育成

スクール・ポリシー（※右上に続く）

1　育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）

(1) 自己実現力→自己の将来像に夢や理想を持ち、その実現に向け自発的に努力する力

(2) 健全性→健全な心身を保ち、高めるために継続して努力する力

(3) 課題解決力→広い視野と旺盛な探究心を持ち、自ら課題を見つけ、課題解決する力

(4) 論理的思考力→様々なテーマや問題に対して論理的に意見を組み立て、表現する力

(5) 主体的行動力→自他の考えを考慮し、自分自身で考え、主体的に行動する力

(6)協働性→社会の担い手としての責任感を持ち、ともに支え合って成し遂げようとする力

2　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

(1) 普通科単位制の特色を生かし、学力を系統的に積み上げる教育課程を編成する

(2) 一人一人のキャリア形成を促すとともに、多様な進路目標に対応できる教育課程を編成する

スクール・ポリシー（※続き）

(3) 総合的な探究の時間や特別活動を通して、生徒の主体性を育む実践的な活動の充実に努める

3　入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

大学進学や資格取得など明確な目的意識を持ち、意欲的に学習に取り組む生徒や、部活動、生徒会活動、ボランティア活動に熱意を持って取り組む生徒を求める。

特色ある教育活動

- ○　６期制による基礎学力の積み上げと自己実現
- ○　進路サポーター制による個に応じた進路指導
- ○　あらゆる進路に対応が可能な教育課程
- ○　学校運営協議会の設置
- ○　単位制の導入
- ○　数学・英語において習熟度別少人数授業の展開
- ○　地域について探究する課題解決学習「じもと学Ⅰ・Ⅱ」の実施

学　校　沿　革　の　略　歴

【北海道登別高等学校】
昭和
23.10　北海道立室蘭高等学校(現室蘭栄高校)幌別分校定時制課程普通科として開校
27.11　北海道幌別高等学校として独立
36.４　町名変更に伴い北海道登別高等学校と改称
38.４　全日制課程普通科を設置し定時制課程と併置
40.３　道立移管
平成
16.４　定時制課程募集停止
17.４　全日制課程募集停止(登別南と統合のため)
19.３　閉校

【北海道登別南高等学校】
昭和
54.４　北海道登別南高等学校全日制課程普通科として開校(１学年２間口)
55.４　全日制課程普通科１学年３間口
56.４　全日制課程普通科１学年４間口
59.４　全日制課程普通科１学年６間口
平成
３.４　全日制課程普通科１学年５間口
４.４　教育課程に類型制を２学年より導入
８.４　全日制課程普通科１学年４間口
15.　　教育課程の類型型を廃止しコース制のみ移行
17.３　閉校式挙行・閉校

【北海道登別青嶺高等学校】
平成
17.４　北海道登別青嶺高等学校全日制課程普通科として開校(登別南高校校舎にて開校)
17.４　開校式・入学式を挙行
　　全日制課程普通科１学年５間口
19.４　全日制課程普通科１学年４間口
令和
３.４　全日制課程普通科１年次３間口　単位制導入

日本工学院北海道専門学校



創立年月日	昭和５７年４月１日
所在地	登別市札内町１８４－３
電話・ＦＡＸ	TEL 88-0888　　Fax 88-0900
校長名	福　井　　誠
副校長名	佐　藤　幸　夫
生徒数	316名
学級数	25学級
職員数	29名
敷地面積	183,887m^2

特色ある教育活動

企業や地域との連携を重視し、実践的な教育を行っている。各学科では、企業へのインターンシップや、企業の協力を得て実践に基づいた演習を実施している。

また、地域貢献を目的に、各学科が地域への企画提案や地域活性化の取り組みを進めており、また、学生委員会を中心にボランティア支援も積極的に行っている。

研究主題

学校教育目標

○工業に関する専門の学理と技術を教育し、日進月歩の科学技術に即応する実践能力を備えた技術者の育成
○商業・文化教養に関する知識と技術を教育し、実践能力を備えた業界の未来を担う人財の育成
○新しい時代を先導しうる知識と理解力、問題解決能力を兼ね備えた公共の仕事を担う人材の育成

学校経営方針・今年度の重点

【方針】
若者の持つ夢や希望を、技術という生きる力に育み豊かな未来創造に寄与するため、「若きつくりびと」の育成を目指す。

【重点】
・「つくる・かんじる・つながる」を意識した教育カリキュラムを構築し、新しい授業方式の導入や新しい技術教育への対応を目指す
・地域に根差した教育活動を行うため、小・中・高のキャリア教育へ貢献する
・外部との連携や評価を得る機会を増やし、学生がより多くの経験を積める環境を整える
・地域との連携を強化し、ここでしか学べない教育および学生生活の確立を目指す

学　校　沿　革　の　略　歴

昭和
54.4　登別市長より学校法人日本電子工学院（当時）に対し専門学校開設の要請
56.9　専修学校の設置認可
57.4　日本工学院北海道専門学校第一回入学式　工業専門課程情報処理科、電気工学科、建築学科、情報工学科（現・文化・教養専門課程ＣＧデザイナー科）等７学科を設置
59.4　工業専門課程にメカトロニクス科（現・自動車整備科）を設置

平成
3.9　創立10周年記念式典を挙行
7.4　文部大臣から専門士の認定を受ける
9.4　学校法人名を片柳学園に変更
13.4　文化・教養専門課程に行政学科（現・公務員２年制学科）を設置
14.8　創立20周年記念式典を挙行
19.4　医療専門課程に医療秘書科（現・商業実務専門課程医療事務科）を設置
27.4　文化･教養専門課程に公務員1年制学科を設置
29.4　商業実務専門課程にビジネス学科（現・ホテル科）を設置
31.4　福井誠が４代目校長に就任

令和
3.4　工業専門課程にＩＴスペシャリスト科（４年制）設置
7.4　工業専門課程にＣＧデザイナー科（３年制）設置

＜＜＜社会教育施設＞＞＞

市民会館

所　在　地　登別市富士町７丁目３３番地１　（℡　0143-88-1139）
構　　造　鉄筋コンクリート造２階建
　　昭和５８年６月１日開館
面　　積　建築 2,833 ㎡　延床 4,658.81 ㎡
施　　設　１階　大ホール、大会議室、
　　サークル活動室、木工室、和室、
　　教育委員会事務室　など



　　２階　中ホール、小会議室、視聴覚室、
　　児童室、調理室、婦人サークル室、
　　青少年センター、一般財団法人登
　　別市文化・スポーツ振興財団事務室など
開 館 時 間　午前９時～午後１０時
休　館　日　年末年始
指定管理者　一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団

＜利用状況＞

区　分	令和４年度	令和５年度	令和６年度
大ホール	４６件	４１件	５７件
	６，４４９人	９，８７５人	１０，４４９人
中ホール	１９１件	２２４件	２３５件
	１０，６７４人	８，６８９人	９，５１３人
大会議室	１９７件	２１８件	２０４件
	５，６１８人	６，１３４人	６，３６０人
小会議室	２２８件	２２０件	２２８件
	１，３２９人	１，４００人	１，６５８人
児童室	１８２件	１５１件	１７９件
	８５８人	６８３人	８６６人
和　　室	５５件	８３件	６４件
	２９７人	３１７人	３２５人
サークル活動室	２６６件	２５５件	１９２件
	１，７８２人	１，９２６人	１，３０７人
木工室	９０件	９４件	８８件
	６９８人	７４０人	７３９人
視聴覚室	２５１件	２４６件	２５３件
	２，４８８人	２，６０４人	２，７５５人
調理室	２６件	１５件	１２件
	２７８人	２２１人	１０７人
婦人サークル室	１０３件	１００件	８４件
	７６６人	６５８人	５８３人
合　計	１，６３５件	１，６４７件	１，５９６件
	３１，２３７人	３３，２４７人	３４，６６２人

図書館

所 在 地　登別市中央町５丁目２１番地１　（℡ 0143-85-4324）
構　　造　鉄筋コンクリート造３階建　昭和４７年５月 開館
面　　積　建築 346 ㎡　延床 1,025 ㎡
施　　設　１階　児童室、えほんのへや、事務室
　　２階　一般閲覧室、閉架庫、
　　３階　参考図書室、郷土資料室、閉架書庫、会議室
開館時間　平日　午前１０時～午後６時
休 館 日　月曜日、国民の祝日（月曜日の場合は翌火曜日も休館）、
　　図書整理日（毎月最終金曜日）、年末年始、特別整理期間（年間７日以内）

＜利用状況＞

区　分	２年度	３年度	４年度	５年度	６年度
本館開館日数	251	228	276	277	275
移動図書館車巡回日数	205	183	228	226	228
蔵書冊数	164,994	162,549	156,962	157,818	157,818

＜貸出冊数＞

区　分	２年度	３年度	４年度	５年度	６年度
本　　館	89,827	84,238	89,947	79,499	74,191
移動図書館	15,230	12,303	14,394	13,596	13,837
分館・配本所	31,823	34,447	40,946	37,900	35,666
団体貸出	8,915	9,283	9,741	10,962	11,670
合　　計	145,795	140,271	155,028	141,957	135,364

＜図書館利用人数＞

区　分	５年度	６年度
本　　館	18,365	17,591
移動図書館車	6,398	6,022
アーニス分館	6,988	6,916
鷲別配本所	6,089	5,757
登別配本所	971	943
合　　計	38,811	37,229

＜年度別新規登録人数＞

５年度	６年度
352	303
9	6
49	48
24	20
13	14
447	391

＜年齢別利用人数＞

区　分	５年度	６年度
0～ 6歳	4,401	3,852
7～ 9歳	1,376	1,343
10～12歳	687	506
13～15歳	260	201
16～18歳	129	121
19～22歳	129	110
23～29歳	402	380
30～39歳	2,818	2,180
40～49歳	3,769	3,930
50～59歳	4,822	4,726
60～69歳	5,537	5,421
70歳以上	13,523	13,529
その他	57	34
団　　体	901	896
合　　計	38,811	37,229



登別市立図書館本館

青少年会館



所 在 地　登別市中央町５丁目２１番地１２
（℡　0143-85-3107）
構　　造　鉄筋コンクリート造２階建
昭和４４年５月２４日
面　　積　建築　602 ㎡　延床　675 ㎡
施　　設　１階　体育館、登別市文化協会事務室
２階　研修室、和室
開館時間　午前９時～午後１０時
休 館 日　年末年始

＜利用人数＞

区　分	令和４年度	令和５年度	令和６年度
大 人 個 人	１６５人	２７７人	３３３人
児童生徒個人	４１５人	８５７人	１，０７１人
団 体 利 用	１７，８８１人	１８，１５０人	１７，５９１人
合　　計	１８，４６１人	１９，２８４人	１８，９９５人
主 な 利 用	バレーボール・ミニバレー・ラケットテニス・剣道・レクダンス・バドミントン		

郷土資料館（文化伝承館）



所 在 地　登別市片倉町６丁目２７番地２（℡　0143-88-1339）
構　　造　鉄筋コンクリート造２階建
昭和５６年９月１日開館
平成８年３月２９日開館（文化伝承館）
面　　積　建築　542 ㎡　延床　675 ㎡
施　　設　１階　展示室
（アイヌ文化、昔の生活道具などの展示）
準備室、伝承体験コーナー、
事務室、収蔵庫など
２階　展示室
（片倉家ゆかりの展示）
開館時間　４月～１０月　　午前１０時～午後５時
１１月～３月　　午前１０時～午後４時
休 館 日　月曜日（祝日、休日にあたる月曜日は開館）、国民の祝日の翌日、年末年始

＜利用人数＞

区　分	令和４年度	令和５年度	令和６年度
大　人	２，１０９人	２，１４５人	２，１３０人
小　人	４４８人	４７６人	９２９人
合　計	２，５５７人	２，６２１人	３，０５９人

ネイチャーセンター（ふぉれすと鉱山）



所　在　地　登別市鉱山町８番地３
（℡　0143-85-2569）
構　　造　鉄筋コンクリート造１階建
平成１４年４月２５日開館
面　　積　建築　1,477 ㎡　延床　1,487 ㎡
施　　設　木工室、森の図書館、
自然情報展示、研修室、
食堂、ロビー、ネイチャーホール、

開館時間　午前９時～午後５時３０分
休　館　日　月曜日、年末年始　（月曜日が祝日の場合は翌日休館、７～８月は休館日なし）
指定管理者　ＮＰＯ法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ

＜利用人数＞

区　　分	令和４年度	令和５年度	令和６年度
大　　人	３，８６８人	４，８２４人	４，９６０人
児童生徒	２，５８８人	３，０８０人	３，６１８人
幼　　児	１，２２４人	１，５３２人	１，５１７人
合　　計	７，６８０人	９，４３６人	１０，０９５人

のぼりべつ文化交流館（カント・レラ）※令和７年９月３０日をもって廃止



所 在 地　登別市登別温泉町１２３番地　（℡0143-84-2069）
構　　造　鉄筋コンクリート造３階建
平成１９年６月１日開館
面　　積　建築　990 ㎡、延床　2,563 ㎡
施　　設　１階　学習室、図書室、保管室、
体験学習室、収納展示室　など
２階　胆振教育研究所、教育資料室
研修室、展示室、談話室、調理室
３階　サークル活動室１～３
開館時間　４月～１０月　午前１０時～午後５時
１１月　午前１０時～午後４時
貸館　午前９時～午後５時
休 館 日　月曜日（祝日、休日にあたる月曜日は開館）、国民の祝日の翌日、１２月～３月

＜利用人数＞

区　分	令和４年度	令和５年度	令和６年度
見学者	１，２８９人	１，１８１人	１，３７２人
利用者	５８０人	６９０人	５１２人
合計	１，８６９人	１，８７１人	１，８８４人

市民プール（らくあ）



所　在　地　　登別市幸町１丁目５番地２
（℡　0143-85-5588）
構　　造　　鉄筋コンクリート造一部木造２階建
平成１６年６月１日　建替開館
面　　積　　建築 3,039 ㎡　　延床 3,500 ㎡
施　　設　　１階　競泳用プール、多目的プール、流水・歩行プール、リラクゼーションプール、トレーニングルーム、事務室、会議室、休憩室　など
２階　研修室、キッズコーナー
開館時間　　午前１０時～午後９時
休　館　日　　第１・第３月曜日（祝日、休日にあたる月曜日は開館）及び年末年始
指定管理者　　一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団

＜利用人数＞

区　分	令和４年度	令和５年度	令和６年度
幼児	１，６１９人	１，３０７人	１，１４６人
児童生徒	１１，１８８人	１６，４５６人	１６，２５１人
一般	２０，９８７人	２１，９９６人	２４，５６１人
高齢者	４０，９２８人	３９，２３６人	３７，８０１人
事業参加	１，９７５人	２，６６３人	２，７７４人
合計	７６，６９７人	８１，６５８人	８２，５３３人

総合体育館



所　在　地　　登別市若山町２丁目２６番地１
（℡　0143-85-5552）
構　　造　　鉄骨造・鉄筋コンクリート造・鉄骨鉄筋コンクリート造３階建
昭和４９年１０月１０日開館
面　　積　　建築　2,164.48 ㎡
延床　2,817.79 ㎡
施　　設　　１階　アリーナ、休憩室、事務室、更衣室
２階　会議室、多目的ルーム
３階　観覧席
開館時間　　午前９時～午後９時
休　館　日　　年末年始
指定管理者　　一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団

＜利用人数＞

区　分	令和４年度	令和５年度	令和６年度
大人個人	４，８１６人	５，２３６人	５，７００人
児童生徒個人	３，５２２人	３，１４１人	３，５９９人
団体利用	４０，４３５人	４１，１０８人	４３，７０２人
合　計	４８，７７３人	４９，４８５人	５３，００１人
主な利用	バドミントン・バスケットボール・卓球・バレーボール・多目的ルーム		

岡志別の森運動公園



所　在　地　　登別市千歳町９７番地７外
（℡　0143-88-2525）
開　　設　　平成９年４月開園
面　　積　　70,730 ㎡
施　　設　　野球場、テニスコート、パークゴルフ場
休憩所
利用期間　　野球場（5 月 1 日～10 月 31 日）
テニスコート（4 月 10 日～10 月 31 日）
パークゴルフ場（5 月 1 日～10 月 31 日）
指定管理者　　一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団

＜利用状況＞

区　分	令和４年度	令和５年度	令和６年度
野球場	２，２２７人	２，８８４人	３，３７３人
テニスコート	６，７８１人	６，９７９人	５，４８１人
パークゴルフ場	１０，９６９人	９，８０５人	９，１６９人

川上公園（B ゾーン）



所　在　地　　登別市桜木町５丁目４１番地１外
（℡　0143-88-2525　岡志別の森運動公園事務所）
開　　設　　平成６年７月開設
面　　積　　35,710 ㎡
施　　設　　野球場
利用期間　　5 月 1 日～10 月 31 日
指定管理者　　一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団

＜利用状況＞

区　分	令和４年度	令和５年度	令和６年度
野球場	３，０５９人	３，５０６人	３，１１６人

＜＜＜学校給食センター＞＞＞

（１）学校給食事業

（令和７年５月１日現在）

安全・安心で栄養バランスがとれた学校給食を小中学校や保育所に調理・配送します。

小学校７校	１，６７７人
中学校５校	８５５人
北海道登別明日中等教育学校前期課程	２１２人
保育所２所	９２人



学校給食センターの外観

（２）　施設の概要

①　所在地　登別市千歳町３丁目１番地３

②　電　話　０１４３－８５－２７２３

③　ＦＡＸ　０１４３－８５－１４７９

④　http://www.noboribetsu.ed.jp/~msc/

（３）　学校給食の役割

本市の学校給食は、学校における教育活動の一環として、児童生徒の心身の健全な発達に寄与することを目標に、全校で完全給食を実施している。

〔学校給食の目標〕（学校給食法）

○　適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること

○　日常生活における食事について、正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。

○　学校生活を豊かにし、明るい社交性及び共同の精神を養うこと。

○　食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであるということについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。

○　食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。

○　我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。

○　食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。

（４）　食に関する指導

子どもたちが健全な心と体を培い、生きる力を身につけていくためには「食」が基本となります。しかし、食生活の多様化が進む中で、肥満、偏った栄養摂取、朝食欠食など子どもたちの食生活の乱れが深刻化する問題となっています。

子どもたちに望ましい食習慣を身につけてもらうため、また、健康についての意識がもてるよう、学校と連携を図りながら、様々な学習機会において、「食に関する指導」を実践しています。

◎　給食指導のねらい

①　楽しく（正しく）会食すること
②　健康によい食事の取り方
③　食事と安全・衛生
④　食事と文化
⑤　勤労と感謝

（５）　給食対象者数の状況（令和７年５月１日現在）

対　象　者	人　数
小　学　校　児　童	１，６７７人
中　学　校　生　徒※	１，０６７人
教職員・保育所	３５０人
合　計	３，０９４人

※　登別明日中等教育学校前期課程の生徒を含む。

（６）　年間喫食数・給食費の状況（令和７年度）

令和７年度より学校給食費を値上げ改定しましたが、児童生徒分については国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、保護者負担額は据え置いています。

１食あたりの単価

喫食区分	令和６年度まで	令和７年度以降	値上げ額
小学生	２９２円	３６５円	７３円
中学生	３５２円	４４０円	８８円

年間食数・給食費

喫食区分	年間喫食数	給　食　費　年　額		
		基準額	公費負担額	保護者負担額
小学校１年・６年	１８３食	６６，７９５円	１３，３５９円	５３，４３６円
小学校２～５年	１８５食	６７，５２５円	１３，５２５円	５４，０００円
小学校特別支援	１８１食	６６，０６５円	１３，２１３円	５２，８５２円
中学校１～２年	１８５食	８１，４００円	１６，３６０円	６５，０４０円
中学３年	１７７食	７７，８８０円	１５，５７６円	６２，３０４円

（７）　給食内容

児　童　・　生　徒　・　教　職　員	主食：パン、米飯 牛乳 温食：麺類、スープ類、煮物、汁物 副食：煮魚、天ぷら、フライ、サラダ類 デザート類

◎　各種審議会委員等

１　登別市社会教育委員

（発足）　社会教育法第１５条に基づき、昭和４６年に「登別市社会教育委員に関する条例」を制定し、発足

（目的）　・社会教育に関して教育委員会に助言するため次の職務を行う。

（１）社会教育に関する諸計画の立案

（２）教育委員会からの諮問に応じ、これに対して意見を述べる。

（３）前２項の職務のために必要な研究調査を行う。

・教育委員会の会議に出席して社会教育に関する意見を述べること。

（委員）　学校教育関係者、社会教育関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者から委嘱（１５名以内）

２　登別市教育支援委員会

（発足）　昭和５４年に「登別市就学指導委員会規則」を制定し、発足

平成２６年に「登別市教育支援委員会規則」に改正

（目的）　教育上特別な配慮を要する就学前幼児、児童及び生徒に対し、適正な就学指導及び教育支援に必要な事項の調査、審議等を行う。

（委員）　医師、特別支援学級設置校校長、特別支援学級担任教諭、児童福祉関係者、学識経験者から委嘱（２５名以内）

３　登別市学校給食センター運営委員会

（発足）　昭和４１年に「登別市学校給食センター条例」を制定し、発足

（目的）　学校給食用物資の購入、献立及び調理方法、並びに給食費の徴収方法その他給食センターの運営について、教育委員会の諮問に応じ、調査及び審議し、その結果を答申する。

（委員）　教育関係者、学識経験者から委嘱（１０名以内）

４　登別市立図書館協議会

（発足）　図書館法第１４条に基づき、昭和４７年に「登別市立図書館条例」を制定し、発足

（目的）　図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる。

（委員）　学校教育関係者、社会教育関係者、家庭教育の向上に資する活動を行うもの並びに学識経験のある者から委嘱（５名）

5　登別市スポーツ推進委員会

（発足）　スポーツ基本法第３２条に基づき、平成２３年に「登別市スポーツ推進委員会設置条例」に改正し、名称変更を行った。

（目的）　スポーツの振興に関する事項についての調査審議及び建議等を行う。

（委員）　学校教育関係、社会教育関係に深い関心・理解を持っているスポーツ関係団体、スポーツ経験者から委嘱（１５名）

6　登別市文化財審議会

（発足）　文化財保護法の規定に基づき、平成２年に「登別市文化財保護条例」を制定し、発足

（目的）　教育委員会の諮問に応じて、文化財の保存及び活用に関する専門的事項を調査審議し、これらの事項に関して建議する。

（委員）　学識経験者の中から委嘱（１０名以内）

7　登別市青少年問題協議会

（発足）　地方青少年問題協議会法に基づき、昭和３７年に「登別市青少年問題協議会設置条例」を制定し、発足

（目的）・青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の樹立につき、必要な重要事項を調査審議する。

・青少年の指導、育成、保護及び矯正の関する総合的な施策の適切な実施を期するために必要な関係行政機関相互の連絡調整を図る。

・前項に関し、市長に対し意見を述べる。

（委員）　市議会議員、関係行政機関の職員及び学識経験者から任命（１５名以内）

8　登別市重大事案対策委員会

（発足）　いじめ防止対策推進法に基づき、平成２９年に「登別市重大事案対策委員会及び登別市いじめ調査委員会条例」を制定し、発足

（目的）　市立小・中学校においていじめに係る重大事態の対処及び当該重大事態と同種の事態の発生の防止その他の教育委員会が必要と認める事項について調査審議する。

（委員）　教育、法律、精神保健、心理、人権擁護等に関する専門的知識及び経験を有する者から委嘱（５名以内）

◎　のぼりべつの文化財

（１）国指定文化財

種　別	名　称	所在地	指定年月日	摘　　要
天然記念物	登別原始林	登別温泉町	大正 13.12.9	北海道中帯南部の植物区系を代表する学術上貴重な天然林の保存を目的に指定された。

（２）登別市指定文化財

種　別	名　称	所在地	指定年月日	摘　　要
有形文化財	円空作観音像	登別温泉町	平成 5.9.2 登別市指定文化財 第１号	寛文６年（１６６６）、美濃国の僧、円空上人が道南各地を巡錫しながら鉈作りというナタ一丁で観音像を刻み、そのうちの１体が当時権現沢に祀られていました。明治４４年（１９１１）の山火事で一時行方不明となりましたが、現在は、地獄谷展望丘の一角に社を設けて安置されています。
	円空作聖観音像	登別温泉町	平成 5.9.2 登別市指定文化財 第２号	円空作観音像が明治４４年の山火事で行方不明となったため、当時登別温泉に在住で郷土史家だった故石川脩次氏が、昭和３２年、円空上人の中期多作時代の観音像１体を愛知県名古屋市中川区の荒子観音寺から入手し、その後昭和４０年に観音山聖光院に奉安された観音像です。
	高村東雲作観音像	登別温泉町	平成 5.9.2 登別市指定文化財 第３号	各像は故岩原菊次郎氏らを中心に登別温泉在住の人々が費用を募り、戦時中東京から栗山村に疎開中の三代目高村東雲に製作を依頼し、安置したものです。

種　別	名　称	所在地	指定年月日	摘　　要
有形文化財	日野愛憙の「明治２年以降片倉家北海道移住顛末」	片倉町	平成 5.9.2 登別市指定文化財 第４号	この著書は、日野愛憙（当時５０歳）が、片倉家の入植した明治２年（１８６９）から２４年間のできごとをまとめたものです。片倉主従が厳しい自然環境に立ち向かい、数々の苦難を克服した史実を伝える登別市の貴重な記録です。
	黒澤家史料	片倉町	平成 10.2.10 登別市指定文化財 第７号	旧仙台藩白石城主片倉家の家臣、黒澤家に伝わる武家文書です。
	幌別村役場文書	片倉町	平成 31.4.26 登別市指定文化財 第９号	戸長役場設置前の数点を含め、明治１３年（１８８０）開設の戸長役場の行政文書を引き継ぐとともに、幌別村役場内において作成又は受理され、一部を除き幌別村役場の文書保存規程により「永年保存文書」として管理保存されてきた文書９６点。本市の歴史を明らかにする上で大変貴重な資料群です。
	片倉家主従開拓記念碑	中央町 （刈田神社内）	令和 4.3.30 登別市指定文化財 第 10 号	片倉家の旧家臣団の移住から６０年近く経った大正１５年（１９２６）に、移住者の子孫が四散してしまい、父祖の奮闘努力が没却していくことを憂えた移住者の子孫らによって、刈田神社境内に建てられた顕彰碑。本市の歴史的歩みを多くの市民に伝えてきたという点において貴重な資料です。
	丈草の記	片倉町	令和 5.2.24 登別市指定文化財 第 11 号	明治１５年（１８８２）５月に讃岐国那珂郡今津村（現香川県丸亀市今津町）から家族とともに北海道へ移住した宮武藤之助が、昭和２４年（１９４９）に当時の生活を思い起こして綴った回想録。四国からの移住者の生活実態を明らかにする資料が非常に少ないなか、大変貴重な歴史資料です。
民俗文化財	幌別鉱山獅子舞	鉱山町	平成 5.9.2 登別市指定文化財 第５号	鉱山町で鉱山事業がはじまった明治３９年（１９０６）から大正９年（１９２０）にかけて、宮城県出身者が郷里をしのんで行っていたものが取り入れられた獅子舞です。

種　別	名　称	所在地	指定年月日	摘　　要
記念物	登別化石林の炭化木（トドマツ）	片倉町	平成 29.2.1 登別市指定文化財第８号	昭和５９年（１９８４）、北海道縦貫自動車道工事の際、「胆振団体研究会」により発見されました。発見された炭化木は、４３，５８０年前のクッタラ火山の噴火堆積物により形成されたものです。ウルム氷期中期の寒冷な気候の変遷の実態を明らかにし、北海道及び登別市の自然史とクッタラ火山の活動史を解明する上でも貴重な資料です。

※登別市指定文化財第６号については、平成 25 年１月に指定解除

（３）指定以外の文化財

種　別	名　称	所在地	指定年月日	摘　　要
有形文化財	念仏鬼像	登別温泉町		毎年８月に行われる「登別地獄まつり」の主役である赤鬼立像３．５ｍ、青鬼立像２．２ｍの像に守られている小さな社（鬼祠）の中に江戸時代から伝わるという「念仏鬼像」が安置されています。
民俗文化財	鷲別子ども獅子舞	鷲別町		昭和５０年１２月、鷲別神社の改築されたのを機に、宮城県遠田郡涌谷町で若いころ獅子舞をしていた草岡久男氏が愛好会を結成し発足したのが始まりです。 ※現在は休止中
	熊舞	登別温泉町		数百年前、けもの道しかなかった登別温泉の湯沼には熊やキツネなどの動物たちが薬湯につかっており、先人がこの地に初めて足を踏み入れたとき山中で熊に出会い、その熊の道案内で地獄谷にたどりついたという伝説にもとづいて、昭和５６年、当時低迷していた登別観光の活性化、湯への感謝と千客万来の祈願を目的として、登別観光協会（当時）の全面的な協力のもと、新しく創作した郷土芸能です。

種　別	名　称	所在地	指定年月日	摘　　要
民俗文化財	北海自衛太鼓	緑町		昭和４０年、地域との交流と隊員の士気高揚を図るために結成され、若さと力強さにあふれた自衛隊流にアレンジした打法は登別の名物として定着しています。
	幌別駒おどり	幌別町		開拓の力になった馬の活躍と、先祖の苦労に感謝する気持ちを後世に伝えるため昭和３８年創作された郷土芸能です。
	湯鬼神かぐら	登別温泉町		地獄谷から鬼が出たという伝説に基づき泉源である地獄谷のお湯に対する感謝、湯の街の繁栄と旅人の安全を祈願して舞う郷土芸能で、昭和４９年、若者達が自ら創作した郷土芸能です。
	子宝もちつき舞い	登別温泉町		登別温泉町に湧く名湯「子宝湯」にちなんで、子宝安産・夫婦円満・家内安全を祈願して、昭和５７年の「登別温泉湯まつり」から誕生した郷土芸能です。
	幌別鉱山渓龍太鼓	鉱山町		夏に鉱山町で行われる「渓流まつり」で演奏するため、鉱山町に居住する若者達が平成９年にグループが結成されました。現在は休止中。

（4）記念物・史跡

名　　称	所在地	摘　　要
題目石	登別温泉町	明治４年（１８７１）に伊達妙栄寺の開山である日進上人が墨で自然石にお題目を書いたものであるといわれています。
薬師如来	登別温泉町	文久元年（１８６１）、火薬の原料として地獄谷から硫黄を採掘していた南部藩栃内氏の家臣善四郎の職人がお堂の下から湧いている温泉で目を洗ったところ眼病が治ったことから、そのお礼として寄進した石碑が安置されているのが薬師如来です。以来、湯治客から目の湯として伝承されてきました。

名　　称	所在地	摘　　要
金成マツの碑	富浦町	金成マツは明治８年（１８７５）１１月１０日当時の幌別村に生まれました。明治２６年にジョン・バチラーの奨めにより函館聖公会の伝道学校で教育を受け、キリスト教の布教活動を行いました。晩年は、登別に住み、ユカㇻをローマ字で筆録しました。本市の功労者第１号の一人。
知里幸恵の墓	富浦町	知里幸恵は明治３６年（１９０３）６月８日当時の登別村で生まれ、６歳の時祖母モナシノウクとともに、旭川に住む金成マツのところに移り住みました。アイヌ語で口承されてきたユカㇻを初めてローマ字と日本語訳で著した『アイヌ神謡集』を手がけました。幸恵は１９歳で亡くなり、金田一京助により東京の霊園に埋葬されていましたが、昭和５０年に現在の富浦墓地、金成マツの碑の隣に改葬されました。
知里真志保をはぐくんだ地	登別本町	明治４２年（１９０９）現在の登別本町で生まれ、アイヌ語を学問として整え、アイヌ文化研究の基礎を確立した言語学者です。また、アイヌ神謡集で有名な姉幸恵も育ったこの地は、水と森に深く包まれたカムイユカㇻ発祥の聖地といえます。
馬事訓練所跡	中登別町	第２次世界大戦中、陸軍により「登別馬事訓練所」（現ユートピア牧場付近）が設けられ、軍人・民間人に対し馬事の訓練を行ったところです。
カムイワッカ	中登別町	カムイワッカは、アイヌ語で「神の水」を意味します。北海道の名付け親とされる江戸時代の探検家松浦武四郎も、安政５年（１８５８）８月に登別を訪れた際、「カモイワッカ」へ立ち寄ったと記録しています。大正７年（１９１８）には登別駅から登別温泉を結ぶ軽便鉄道が開通し、カムイワッカに「神威若」停車場が設置され、蒸気機関車の給水所の役割も果たしました。カムイワッカからは、今も変わらず水が湧き出ています。
滝本金蔵人馬継立所の跡	登別本町	明治６年（１８７３）、札幌本道（現登別小学校の前の通り）で、自ら私財を投じ登別温泉への道路を整備、湯宿を開くなど登別温泉の開発に尽力した滝本金蔵が宿泊所を設け、人馬継立所として逓送を行った場所です。
愛隣学校跡	幌別町	愛隣学校は、明治２１年（１８８８）にアイヌの子供たちのために、幌別アイヌと英国聖公会宣教協会のジョン・バチラーによって設立された学校です。明治２８年頃（１８９５）まで学校は続いており、その後、隣にある教会の日曜学校に吸収されてしまいますが、学校設立までの動きは、明治期のアイヌ自身による先駆的な教育活動として注目されます。

名　　称	所在地	摘　　要
ジョン・バチェラー家跡	青葉町	明治２６年（１８９３）に札幌に転居するまでの間、幌別を中心としてキリスト教の伝導に従事しました。その間、ルイザ夫人と召使いパラピタ夫妻及びその養女キンが生活していた木造の邸宅があった跡地です。ここを拠点として、馬に乗り遠くは日高方面へ布教に行っていたといわれています。
片倉家家臣による鷲別開拓発祥の地	美園町	「胆振国幌別郡全図」によると、片倉家家臣がこの地に移住を計画したのは戸数１８戸、長屋１戸、開拓畑反数７７反四畝歩と記されています。「幌別郡之内鷲別屋敷図」には江戸期の道路を中心に黒澤源一郎・桐軍治・榛沢蔵松・杉山与一郎らの屋敷図が記載されています。この地１０万㎡は明治３年（１８７０）以降鷲別開拓の拠点になりました。
アフンルパル	登別本町	アフンルパルは、アイヌ語で「入る・道・口」の意味で、あの世の入口を指しています。一般的には横穴ですが、ここは珍しい竪穴です。アイヌ語学者 知里真志保、友人でアイヌ語地名研究者の山田秀三らが、昭和３０年(１９５５)に真志保の父 高吉の案内で調査しました。穴は楕円形で、道路工事で一部破壊されてはいますが、現在でもその大きさを体感できます。金成マツが、この地にまつわるウエペケレ(昔話)を残しています。
江戸期の旧道「七曲り坂」	富浦町	松浦武四郎は弘化２年（１８４５）以降蝦夷地をたびたび探検調査しましたが、東蝦夷日誌ホロベツ領に「坂口より九折を上る。十年前桟橋なりしが今は無く上り平地（小休所）下崖にて、下を臨めば白海岸を撃ち、西を臨めば白海岸を撃ち、西を眺めれば会所元（幌別）よりエトモ岬、内浦岳（駒ケ岳）、その景恰も薩捶峠にて富峰（富士山）を見るが如し」とその景色を絶賛した所で、箱館奉行所役人や蝦夷警備の武士など多くの人々が通行した江戸期の旧道跡です。

（５）記念碑

名　　称	所在地	摘　　要
東宮殿下大婚奉祝記念碑	登別温泉町	東宮殿下（後の大正天皇）のご結婚を記念して、街の有志たちが湯澤神社境内に建立しました。
頌徳碑・功労碑	登別温泉町	登別温泉の開拓・発展に大きな功績を残した滝本金蔵・栗林五朔翁らを讃えた碑です。滝本金蔵翁は登別温泉開拓の祖として、江戸時代に来泉し明治時代に活躍し、また栗林五朔翁は大正時代に温泉経営の近代化に尽力し偉大な足跡を残しました。
野宿の碑	カルルス町	オロフレ荘前の川淵にあり、明治２２年（１８８９）、日野久橘が伐採樹種調査のためにこの地を訪れ、カルルス温泉を発見した際に一夜を過ごした場所です。

名　　称	所在地	摘　　要
開湯二十五年記念碑	カルルス町	明治３２年（１８９９）８月６日にカルルス温泉を開湯した日野久橘・市田重太郎の創業２５年来の努力を讃え、その後のカルルス温泉発展を望んで建立されました。
功程碑	カルルス町	カルルス温泉開湯３０年を記念して、開場当時からの道路開削などの記録がこの石碑に記されています。
開祖日野久橘翁功績碑	カルルス町	昭和３年７月８日、日野久橘夫妻の金婚式の祝いとともに、カルルス温泉の開祖者として尽力した久橘の功績をたたえ、地域の有志たちによって同年６月１０日に建立されました。
滝本翁記念碑	登別温泉町	湯澤神社境内に建てられ、「瀧川湯本翁命」の石碑と併設されています。
知里真志保の碑	登別本町	真志保は生前「故郷をしのび、海の見える丘に住みたい」というのが口癖だったといわれ、これを知った室蘭中学校同窓生が中心となり、太平洋と生まれ育った登別川をのぞむ丘に碑を建立しました。現在は登別小学校脇に建っています。
明治天皇の行幸記念碑	富浦町	明治天皇が北海道２回目の行幸の時にこの地で休憩したのを記念して建立されたものです。
魚霊碑	富浦町	魚族の霊を慰めるために富浦町の漁民たちが中心となって寄付を募り、富浦漁港の船巻き揚げ場に建立した碑です。
ダム龍神	川上町	奥川上部落の住民たちが天地の恵みと土地の繁栄及び無災害を祈願して、西湖岸に守護神木塔を建立した碑です。
明治天皇御駐輦記念碑	中央町	明治天皇が北海道２回目の行幸の時にこの地を視察したのを記念して建立された碑です。刈田神社境内。
奉祝大婚之碑（東宮殿下）	中央町	刈田神社境内に東宮殿下（後の大正天皇）の成婚式挙行を記念して建立された碑です。
堀孝太郎記念碑	中央町	堀孝太郎は明治２２年（１８８９）から約２０年間幌別小学校の校長を務め、謹厳な中にも慈愛にあふれた人柄で生徒にも尊敬され、登別の教育界に立派な足跡を残しました。本晃寺境内。
大正天皇御即位記念碑	中央町	大正天皇の即位を記念して建立された碑です。刈田神社境内。
開拓記念碑	鉱山町	幌別ダムの上流に蔭の沢鉱山跡があり、その上の平坦地に碑が立っています。
堀嘉国先生頌徳碑	鷲別町	堀嘉国は登別温泉小学校で７年、鷲別小学校で６年余り校長を務め、父孝太郎同様に慈愛にあふれた人柄だったので生徒から大変尊敬され、子どもの非は自分がいたらないからだといって自分を厳しく戒めたといわれています。鷲別神社境内。

名　　称	所在地	摘　　要
札内六拾年記念碑	札内町	札内地区の開拓６０周年を記念して、日本工学院北海道専門学校近くの道路沿いに建てられています。
明治天皇記念碑	鷲別町	明治天皇が北海道２回目の行幸の時にこの地を視察したのを記念して建てられた碑です。

（６）歌碑・句碑

名　　称	所在地	摘　　要
高浜虚子の句碑	カルルス町 登別温泉町	札幌市で開催の全道ホトトギス俳句大会に出席する途中、昭和２３年（１９４８）６月１５日、高浜虚子・高浜利尾らが登別温泉に宿泊し、翌１６日にカルルス温泉に吟行した後、登別温泉で虚子の歓迎句会が開かれたときに詠んだ句です。 地獄谷の舟見山遊歩道の中にも虚子の句があり、大正８年（１９１９）６月に旭川で開かれたホトトギス北海道全国大会のため来道した際の作品です。
吉田元利の歌碑	カルルス町	札幌の吉田元利が、東宮殿下（後の大正天皇）大婚の夏にカルルスの鈴木旅館の前にある楓の木が二本交差している（夫婦楓）さまを見て詠んだ歌です。
栗林加寿子の歌碑	登別温泉町	地獄谷の舟見山遊歩道及び登別ガーデン跡地には、登別温泉発展の功労者である栗林五朔夫人加寿子の歌碑が４基あります。
臼田亜浪の句碑	登別温泉町	臼田亜浪は長野県に生まれ、大正４年（１９１５）に俳句誌「石楠」を創刊しました。昭和１１年（１９３６）８月に来道の際、登別温泉に立ち寄って詠んだ句を弟子が碑を建立しました。
香葉句碑	登別温泉町	碑文は明治神宮の建設を記念して、と前書きがあり左側に細字の掘り込みが見られるものの、判別することはできません。

（７）埋蔵文化財包蔵地

遺跡名	所在地	時　代	摘　　要
鷲別１遺跡	鷲別町	縄文前期～後期、続縄文、中・近世	縄文時代前期の円筒下層式、中期の円筒上層式及び余市式、後期の入江式、晩期の亀ケ岡式土器が出土した遺跡です。貝塚を主体とする遺跡で、ハマグリを中心にホッキやホタテの貝殻も発見されており、登別の考古学調査はここを最初とします。
鷲別２遺跡	美園町	縄文中期	鷲別川左岸の河岸段丘に形成された遺跡で、土器片が発見されています。
鷲別３遺跡	鷲別町	近世	現在の透禅寺付近にあたり、かつて宅地造成工事の際、人骨・鉄刀・漆器片が発見され、近世の墓が発見されています。

遺跡名	所在地	時　代	摘　　要
富岸神社遺跡	富岸町	縄文早期～中期、晩期	富岸川左岸の河岸段丘、緑陽中学校東側に形成され、縄文後期の入江式土器が出土しています。
富岸小学校遺跡	富岸町	縄文中期	標高約２０ｍの富岸川右岸河岸段丘に形成された遺跡。縄文中期とみなされる遺物が出土しています。
富岸遺跡	富岸町	縄文早期～後期	富岸川左岸の河岸段丘から丘陵部の標高３０～３５ｍに形成された遺跡で、昭和５５年の発掘調査では円筒下層式・円筒上層式・北筒式・余市式・入江式・堂林式などの土器５，５１０点が出土しています。縄文時代各期の遺物が出土していますが、中期・後期が主体の遺跡です。この遺跡と川上Ｂ遺跡からは魚の骨を土器の表面に回転させた「魚骨回転文土器」が出土しています。また、発見された「落とし穴」３基のうち１基は土層断面から縄文中期～後期にあたると推定されています。
亀田公園遺跡	富岸町	縄文中期～後期	標高４７ｍ～６２ｍの南東向き緩斜面上に形成された遺跡で、北海道縦貫自動車道の建設に伴い昭和６１年２，３５５㎡にわたり発掘調査が実施されました。縄文時代中期の集落跡で土器片・石器など総数７３１点の出土遺物や住居跡・囲いのない地床・炉跡などの遺構２８基が発見されています。
川上Ａ遺跡	桜木町	続縄文	幌別川の河岸に形成された遺跡で、続縄文期の恵山式土器が出土しています。土偶が１点付近から出土しています。
川上Ｂ遺跡	青葉町	縄文早期～後期	北海道縦貫自動車道登別･室蘭インターチェンジ付近のヤンケシ川右岸の河岸段丘上標高１５～２５ｍに形成された大規模な遺跡で、昭和５５年から６０年にかけて発掘調査が実施されました。登別では初の旧石器や中茶路式・円筒上層式・北筒式・余市式・入江式など縄文早期～後期にかけての土器約８万点が出土し、直径１２ｍを越える大型住居跡など１５０の縄文中期末葉～後期前葉の住居跡や墓などの遺構が発見されています。雨の多い登別にあって、縄文時代にも豪雨による土砂崩れが少なくとも２回は起きていたことがこの発掘調査で推定されています。この遺跡からは「北海道式石冠」と称されるすり石や「石刃鏃」というシベリア方面から伝わり登別が南限といわれる石器「耳飾り」などのアクセサリーも出土しています。 また、出土した獣骨や魚骨からエゾシカ・サメ・サケ・ウグイなどが当時の食料源として捕獲の対象になったことがわかっています。
来馬チャシ跡	片倉町	中・近世	幌別ダムの建設工事の際に破壊され、現存していません。内耳土器・チャシ時代成立期頃の遺跡といわれています。
片倉遺跡	片倉町	縄文中期	幌別川左岸の河岸段丘に形成された遺跡で、円筒上層式土器が出土しています。幌別ダムのダムサイト建設中に大規模に破壊されたと考えられ、包蔵地と思われる部分は土取りされています。

遺跡名	所在地	時　代	摘　　要
来馬遺跡	片倉町	縄文中期	範囲１，４００㎡の遺跡ですが、詳細については分かっていません。
幌別遺跡	中央町	続縄文	来馬川の左岸に形成された遺跡で、恵山式の土器が出土しています。
山木１遺跡	常盤町	縄文早期	範囲２，５００㎡の遺跡ですが、詳細は分かっていません。
山木２遺跡	常盤町	縄文前期～中期	範囲２，８００㎡の遺跡ですが、詳細は分かっていません。
千歳１遺跡	千歳町	縄文前期～中期	岡志別川の河岸段丘に形成された遺跡で、円筒上層式・下層式土器や北海道式石冠などが出土しています。昭和５６年、千歳６遺跡と平行して登別市教育委員会が調査を実施しました。
千歳２遺跡	千歳町	縄文早期～後期	札内台地の裾野に形成され、北海道式石冠、石鏃などが出土しています。また、北海道縦貫自動車道工事の作業所建設時には、縄文時代前期の竪穴式住居跡も発見されています。
千歳３遺跡	千歳町	続縄文	岡志別川右岸、札内台地の裾野に形成された遺跡で、恵山式土器が出土しています。
千歳４遺跡	千歳町	縄文早期～後期	札内台地の裾野、２つの小川にはさまれた丘陵の南向き斜面から低地にかけて広がる遺跡で、道道の改良工事に伴い昭和５５年に発掘調査が実施されました。縄文中期の住居跡の床面から円筒上層式・北筒式・静狩式などこの時期の土器に混じって、東北地方北部で出土している縄文中期の最花式に似た土器がまとまって見つかり、貴重な研究資料となりました。
千歳５遺跡	千歳町	縄文前期～後期	岡志別川上流域左岸、札内台地の裾野に形成された遺跡で、昭和５７・５９両年度発掘調査が行われました。住居跡や北筒式・余市式・円筒上層式・煉瓦台、青竜刀形（中国の青竜刀に似た縄文時代の磨製石器で東北地方から渡島半島にかけて分布、刀としてではなく祭祀などに使われたと思われる）などの土器・石器とともに、「オロシガネ状石器」が出土しています。この「オロシガネ状石器」は毒草をすりつぶして狩猟に使った、という説や、表面が擦り減っていないので単に祭祀の道具として使われたという説などがありますが詳しくはわかっていません。また、石斧の原石や破片がたくさん出土していることからここで石斧を制作していたことも確認されています。縄文中期から後期までの遺物が多量に発見されたほか、縄文早期～後期の遺物も発見されており、定住的な生活があったことがわかります。

遺跡名	所在地	時　代	摘　　要
千歳６遺跡	千歳町	縄文中期	岡志別の森運動公園の北東の丘陵上に形成され、昭和５６年度に発掘調査が実施されました。大・小の住居跡を含む竪穴３４基や石囲炉１基などの遺構をはじめ、ノダップⅡ式土器、余市式土器が出土しています。縄文晩期を除く各期の遺物を出土していますが大きくわけて早期と中期後半～後期前半の二つの時期を中心にわずかずつ地点を替えながら集落を形成し生活が営まれていたと考えられています。
千歳７遺跡	千歳町	縄文中期	札内台地の裾野のごく狭い範囲に形成された遺跡で、円筒上層式土器や石器が出土しています。
トイチセコツ遺跡	登別本町	縄文中期	北海道縦貫自動車道工事の際に発見された「登別化石林」に近い丘陵頂上部にあります。
中登別遺跡	中登別町	縄文中期	ポンアヨロ川右岸の台地に形成された遺跡で、北海道縦貫自動車道登別東インター付近にあります。
若山町遺跡	若山町	縄文前期～中期	富岸川左岸の丘陵の先端に形成された遺跡。試掘調査により、縄文時代前・中期の土器や石器が発見されています。
アフンルパル遺跡	登別本町	中世～近世	蘭法華岬から続く平坦な海岸段丘上に形成されています。平面の形は３０ｍ×２２ｍの楕円形を呈するすり鉢状のくぼ地で、底に向かって階段状になっています。知里真志保・山田秀三によってこの地に伝わる話が報告されています。アイヌ文化の送りを考える上で興味深い遺構といえます。
千歳８遺跡	千歳町	縄文中期	岡志別川右岸の緩やかな斜面に形成された遺跡です。縄文土器のほかに石器も発見されています。
富岸川右岸遺跡	富岸町	縄文中期～後期	富岸川右岸の緩やかな斜面に形成された遺跡です。平成１９年の発掘調査では、竪穴式住居跡が４軒、シカを捕獲するための落とし穴が３７９基発見されました。西胆振だけでなく、全道的にも非常に密度の濃い落とし穴の数であり、縄文時代の狩猟活動を考える上で貴重なデータを残しています。
キウシト遺跡	富岸町	縄文早期・中期・後期、続縄文	富岸川左岸の標高２０～３０ｍの海に向かって伸びる長尾根上に位置しています。遺跡の性格としては、住居跡や獣骨が混じる炉跡の検出や多くの土器や礫石器の出土から、集落跡であった可能性が高いと考えられます。しかし、狩猟用の落とし穴が発見されていることから、時期的に猟場として使用されていたことも想定されます。
ウキシマニシト遺跡	常盤町	縄文早期	来馬川と岡志別川にはさまれた細尾根の標高４０ｍ地点に位置します。 造成によりほとんど削平されていますが、土器が発見されています。

遺跡名	所在地	時　代	摘　　要
富岸川左岸遺跡	富岸町	縄文中～後期	富岸川左岸の標高５４～６４ｍの山の中腹に位置します。土器や石器、石製のアクセサリーが発見されています。富岸川右岸と関係がある集落跡と考えられます。
シンノシケウンオカシペツ遺跡	千歳町	縄文早期、中期、後期、擦文	岡志別の支流であるシンノシケウンオカシペツ川の微高地に位置します。市内で数少ない擦文時代の遺跡です。
シンケプシニナルカ遺跡	千歳町	縄文早～中期	岡志別川とその支流であるシンノシケウンオカシペツ川にはさまれた段丘の緩やかな斜面に位置します。 広い範囲で確認されており、標高の高い地点にまで広がる可能性があります。
ウキシマニシト２遺跡	常盤町	縄文早期	来馬川と岡志別川に挟まれた尾根上の標高３０～３６ｍに位置します。縄文時代早期の土器、黒曜石製の石鏃などが発見されています。
ニナルカ遺跡	千歳町	縄文後期	来馬川と岡志別川に挟まれてた尾根状の台地の先端、標高１３～１４ｍに位置します。縄文時代後期の土器や黒曜石の剥片が出土しています。
リフルカ遺跡	登別港町	縄文中期	太平洋へ突き出る標高５８～６０ｍの舌状台地の平坦面に位置します。縄文時代中期の土器や貝やウニ片が確認されており、遺跡の範囲は広がる可能性があります。

登別市小中学校・高等学校統廃合校の沿革と校歌

１．幌別鉱山小中学校

明治４０年　５月　幌別尋常小学校付属幌別鉱山教授所として開校
大正　４年　４月　幌別鉱山尋常小学校と改称
昭和２２年　４月　幌別鉱山小学校と改称
昭和２８年　４月　幌別鉱山中学校を設置し、小学校に併置（幌別鉱山小中学校と改称）
昭和３３年１２月　新校舎落成
昭和４９年　３月　閉校

校歌

作詞
作曲　安達　保

一、四方めぐらす山々は
北斗の星とささやきて
大きく伸びよとのぞみいる
共にこたえんその希望
きたえて進むこの庭に
鉱山　鉱山
わが鉱山校

二、星のひとみのまたたきは
幌別川の影宿し
久遠のしあわせねがいいる
共に励まん人の道
学びて歩むこの庭に
鉱山　鉱山
わが鉱山校

（昭和三八、三制定）

２．カルルス温泉小学校

大正１２年　４月　登別温泉尋常小学校カルルス特別教授所として開校
昭和１２年１２月　カルルス温泉尋常小学校と改称
昭和２２年　４月　カルルス小学校と改称
昭和４８年　６月　創立５０周年記念式典
昭和５７年　３月　閉校

校歌

作詞　柳沼牧羊
作曲　福田耕二

一、みどりのしずく　ぎんの水
もみじのしずく　きんの水
小鳥も風も　いつもきて
ちとせの川は　流れてる
きれいな町のカルルスの
みんなの温泉小学校

二、ちぎれてとぶは　白い雲
ふんわりうくは　あかね雲
小鳥も風も　いつもきて
オロフレ岳は　そびえてる
ひらけて古い　カルルスの
みんなの温泉小学校

三、げんきな声は　男の子
あかるい声は　女の子
小鳥も風も　いつもきて
まなぶたのしさ　あふれてる
ゆめの大きい　カルルスの
みんなの温泉小学校

（昭和四八・一一制定）

３．札内小中学校

明治３３年　５月　幌別尋常小学校札内簡易教育所として開設
大正　２年１０月　児童の激減で同教育所閉校
大正　５年　４月　幌別尋常小学校付属札内教育所として再開
昭和１５年　４月　札内尋小小学校として独立
昭和２４年１１月　幌別中学校札内分校として設立認可、札内小学校に併置
昭和２９年　４月　札内中学校として独立し、札内小中学校に改称
平成１０年　３月　閉校

校歌

作詞　柳沼牧羊
作曲　間島篤

一、山が呼ぶ　山が呼ぶ
ポントコ山のひかる雲
仲良くこぞって手を上げて
登ろう　希望の峰めざし
みんなの学校　札内校
わが母校

二、丘が呼ぶ　丘が呼ぶ
札内原野のかおる風
仲よくこぞって肩組んで
創ろう　理想のさとめざし
みんなの学校　札内校
わが母校

三、海が呼ぶ　海が呼ぶ
太平洋の白いなみ
仲よくこぞって腕ためて
こごう平野の岸めざし
みんなの学校　札内校
わが母校

（昭和四一、一制定）

４．登別温泉中学校

昭和２２年　５月　設立認可（３学級編成）登別温泉小学校に併置
　　７月　開校となり、９月より正常授業
昭和２４年１２月　登別温泉小学校隣地に木造校舎完成
昭和５３年１２月　登別温泉町１２３番地に新校舎完成（現在、文化交流館「カント・レラ」）
昭和５４年　２月　開校３０周年記念式典
昭和５８年　２月　愛鳥保護モデル校に指定される。
平成　４年　６月　北海道知事より「愛鳥モデル校」として指定を受ける。
平成１０年１０月　開校５０周年記念式典
平成１６年　３月　閉校

校歌

作詞　石森延男
作曲　久本成夫

一、美わしき雲立ちのぼれ　日和山
仰ぐわれらの　ひとみにも
高き理想は　かがやけり
まことの世界　学びつつ
きょうも進まん　まっしぐらに

二、風そよぐ桜が丘の　静けさは
思うわれらの　友情と
自由奉仕の　精神を
尊き行為　身に付けて
あすも進まん　ともどもに

三、名にしおう　いで湯の町と
　　うたわるる
わがふるさとは　幸多く
自然の恵み　ゆたかなり
力あふるる　このからだ
いよよ育てん　すこやかに

（昭和二九、七制定）

５．登別温泉小学校

明治３３年　６月　登別温泉簡易教育所を開設
明治３７年　５月　登別尋常小学校付属湯の滝教育所開設
大正　４年　４月　湯の滝尋常小学校と改称
大正　７年　７月　新校舎完成し、登別温泉尋常小学校と改称
昭和３２年１０月　新校舎完成。創立５０周年記念式典
昭和５３年１０月　創立７０周年記念式典
平成１８年１１月　創立１００周年記念式典
平成１９年　３月　閉校

校　歌

作詞　西條八十
作曲　明本京静

一、わが日本の　誇りなる
清き温泉の　登別
みどりの峰に　かこまれて
学ぶわれらは　幸あるこども

二、明るき心　強き意志
恩師の教え　まもりつつ
学びの業に　体育に
励むわれらは　雄々しきこども

三、窓べにあおぐ　日和山
のぼる煙の　ひとすじに
祖国の栄え　めざしつつ
進むわれらは　希望のこども

四、世界の平和　きずかんと
伸びてたくまし　日本の
未来を担う　者はたれ
われぞわれぞ　光栄あるこども

（昭和一八、二制定）
（昭和三三、一改作）

６．登別高校

昭和２３年１０月　北海道室蘭高等学校（現室蘭栄高等学校）幌別分校として開校
昭和２７年１１月　幌別高等学校（定時制）として独立
昭和３６年　４月　登別高等学校（全日制）として開校、定時制を併置
昭和４０年　４月　道立移管し北海道登別高等学校と改称
昭和５７年１０月　全日制２０周年・定時制３０周年記念式典
平成１９年　３月　閉校

校　歌

作詞　伊馬春部
作曲　石丸　寛

一、シノピリカ　カムイネモシリ
永久なる流れ　幌別の　ほとりに佇ちて　思うかな
この地拓きし　祖祖の　意志の理想は　なお生きて
若きわれらの　胸にあり　かくてこそ　香るなれ
鈴蘭の原野も共に　われら行く手に　幸う如く
ああ登別　登別高等学校　わが母校

二、シノピリカ　カムイネモシリ
来馬オロフレ　幌別の　嶺嶺仰ぎ　謳うかな
雪に翠に　また花に　姿かえつつ　はぐくむは
若きわれらの命なり　かくてこそ　さやかなれ
もろもろの鳥のこえごえ　われら行く手
ことほぐ如く
ああ登別　登別高等学校　わが母校

三、シノピリカ　カムイネモシリ
涯渺々の　太平洋　窓をのぞみて　誓うかな
産業地帯　その要　都市の未来を　創るもの
若きわれらの力なり　かくてこそ
壮んなれ　エネルギー　大地に満ちて
われら行く手　導く如く
ああ登別　登別高等学校　わが母校

力　力　若さの力　われら若人　登別
幸あれ　栄えあれ　光あれ

（昭和四〇、一〇制定）

６．幌別東小学校

昭和４５年　４月　幌別小学校から分離開校
昭和５３年１１月　全国表彰「博報賞」受賞
昭和５４年１０月　開校１０周年記念式典
平成　元年１２月　開校２０周年記念式典
令和　元年１２月　開校５０周年記念式典
令和　７年　３月　閉校

校　歌

作詞　柳沼　牧羊
作曲　渡辺　三男

一、潮が溢れる　紺青の
陽の射し昇る　太平洋
手を取り合って　声あげて
集うよい子の　東小
ぼくらの　東小学校

二、樹々をこぼれる　万緑の
風さわやかな　来馬岳
励まし合って　胸はって
学ぶよい子の　東小
わたしらの　東小学校

三、父祖が開いた　百年の
歴史が古い　登別
夢を育てて　受け継いで
進むよい子の　東小
われらの　東小学校

（昭和四五、一一制定）

室蘭常盤学校幌別分校（現幌別小学校）設立請願書

北海道における小学校の初期教育は開拓の歴史とその変遷をともにした。開拓者が入植すると、神社を建て学校を開設するのが最も普通の順序であった。最初は正式な学校教育としてではなく、共立教育所という郷学校を開いて子弟の教育を行った。幌別は士族移住地で、概して教養あるものが多く、精神主義を主としたから、とりわけ教育には積極的であった。幌別地区に入植した開拓者は、年を追って学齢児童が増加し、小学校設置が急がれ、次のような願書が明治十四年に出された。

幌別郡幌別村仮小学校設立ニ付御補助之儀願

教育之儀ニ付テハ毎回御達ノ趣モ有之、本郡ニ於テモ小学校ヲ設ケ教授支度ハ年来ノ素願ニテ其ノ方法等協議仕候ヘドモ、何分ノ貧弱之一寒村其ノ資金ノ出ル目途不相立、梢々資産アルモノ札幌及室蘭港ニ寄留致シ学校ヘ通学候ヘドモ其ノ他ハ皆教育ノ何物タルヲ弁ゼズ、此節ニ至リ旧土人ヲ含メテ四十余名ノ学令児童モ有之、無際限此姿ニテ歳月徒ニ過ル時ハ独リ教育ノ趣意ニ戻ルノミナラズ、全郡ノ児童一丁字ヲ解スル能ハズ、普通ノ交際ヲモナス能ハザル段ニテ、父兄ノ義務モ不得歎息ニ堪ヘズ、今般一同評議寄付金募集百弐拾余円ヲ得、幌別村ヘ室蘭常盤学校ノ分校ヲ取立テ、常盤学校二級以上ノ生徒ヲ幌別ヘ交番派出シ教授ヲ受度入費概算候ヘバ学校ニ充ツベキ家屋ノ修繕、書籍器材ノ購入費其ノ他日々ノ諸経費ハ寄付金並ニ授業料ヲ以テ支弁可仕候ヘドモ、教員ノ食費ニ充ツベキ四円ノ金ハ毎月不足ヲ生ジ、折角寄付金モ集纏候際此不足金ノタメ興学志願水泡ニ属シ候ハ実ニ遺憾之至リニ奉存候間格別之御詮議ヲ以テ相当御補助下賜人民ノ宿願相達教育之道ニ進之候様被成下度、常盤学校教員安田貞謹ヘモ協議ノ上維持法調書相添此段私共総代ヲ以奉願候也

幌別郡総代人学校世話役　西東勇吾

日野久橘

明治十四年四月

開拓権大書記官　鈴木大亮　殿

前書之通願出候ニ付奥印之上進達候也

幌別郡各村戸長　本沢直養

願之趣聞届候事

但当分ノ内一ヵ年補助金三十六円ノ割、開業ノ日ヨリ可下度候条受取方常盤学校補助金ノ例ニ倣ヒ会計局ヘ可承合事

明治十四年五月十一日

※上の願書の学校世話役というのは、明治５年の学制に基づき住民から選ばれた役で、学校の新設・就学の勧誘をその任務とした。

※明治５年の１円は今のお金に換算すると４万５千円に相当した。

この請願により明治十四年六月十四日に今の幌別小学校が公立常盤小学校幌別分校として創立される。翌年の八月、今の鷲別小学校が公立常磐小学校鷲別分校として創立。同年十月、幌別分校が幌別小学校として独立するに伴い、幌別小学校鷲別分校となる。明治十九年、鷲別分校は戸数減少で廃校となり、同二十三年に再開される。

（昭和四十二年四月十五日発刊の「登別町史」より抜粋）

令和７年度（令和６年度実績）

登　別　の　教　育

（資　料　編）

登　別　市　教　育　委　員　会

目　　次

Ⅰ　総務グループ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

Ⅱ　学校教育グループ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

Ⅲ　社会教育グループ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

Ⅳ　図書館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５

Ⅴ　市内小学校一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７

Ⅵ　市内中学校一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７

Ⅶ　社会教育施設一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１８

Ⅰ　総務グループ

（１）小学校校舎等改修事業費　2,523 万 4 千円

児童などが安心で快適な学校生活を送ることが出来るよう、老朽化している富岸小学校の給水設備の改修に着工したほか、老朽化している若草小学校の屋内運動場の床の改修及び幌別小学校の外部物置の新設を行った。

（２）旧若草町教職員住宅除却事業費　2,530 万円

環境改善を図るため、既に供用を廃止した旧若草町教職員住宅の除却を行った。

Ⅱ　学校教育グループ

（１）いじめ・不登校等対策経費　５万７千円

・**教育相談・いじめ相談**…教育指導専門員を６人配置し、電話や来室による相談を受けました。（月～金曜日の９時～１７時）

・**いじめ・不登校等対策会議**…校長会や教頭会の代表、小中学校教諭、教育委員会などで構成される同会議を年６回開催しました。

・**保護者向け広報誌『手をつなぐ親と子』の発行**…児童生徒の保護者や地域の方を対象に発行しました。

・**生徒指導担当者連絡会議**…年４回開催しました。

・**一人１台端末を活用した児童生徒の相談窓口の実施**

・**「鬼っ子フォーラム」の開催**…市内小中学校及び高等学校の代表者が、「みんなが通いたくなる学校づくり」をテーマにトークセッションをしたほか、教育長や登別市ＰＴＡ連合会代表と意見交換をするとともに、自校の取組紹介を行いました。

（２）スクールカウンセラー活用事業費　２万８千円

小中学校におけるいじめや不登校などの問題行動について、臨床心理士などの専門家３人を学校に派遣し、児童生徒等の相談に対応しカウンセリング体制の充実を図りました。

配置校（拠点方式）　幌別中学校、鷲別中学校、緑陽中学校、西陵中学校、登別中学校

（３）心の教室相談員活動経費　０千円

生徒たちの不安やストレスなどを和らげ、心のゆとりを持てるよう心の教室相談員を各中学校に１人ずつ配置し、友人関係や進路、親子関係、登校拒否などについて生徒の相談に応じました。

配置校　幌別中学校、西陵中学校、鷲別中学校、登別中学校、緑陽中学校

（４）スクールソーシャルワーカー活用事業費　０千円

不登校など生徒指導上の問題解決に向けた校内体制の確立を図るため、教育委員会に２人のスクールソーシャルワーカーを配置し、学校、家庭、関係機関の訪問、及び児童生徒との面談を重ね、生活環境の調整や、児童生徒が抱える問題の解決に向け、支援を行いました。

（５）児童生徒健康診断等経費　1,426 万５千円

市内小中学校の児童生徒並びに新入学児童の健康管理のために健康診断を行いました。

また、学校薬剤師を調査員とする市内小中学校の環境衛生調査を実施し、改善項目に

ついて対応に努めました。

（６）学校医等表彰経費　９万６千円

長年にわたり市内小中学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師として、児童生徒の健康の保持増進と保健教育の振興に貢献したものに対し、その功績を称えました。

（７）中学校体育連盟助成金　123 万８千円

中学校の体育を振興し、スポーツを通して生徒の健康増進や生徒間交流を図るため、各種大会を主催する中学校体育連盟に助成金を交付しました。

（８）外国青年招致経費　1,957 万１千円

生きた英語を指導する外国語指導助手（ＡＬＴ）４人を活用し、英語を使ったコミュニケーション能力の育成や地域における国際交流の推進を図りました。

（９）特色ある学校づくり推進経費　371 万９千円

・**総合的な学習活動の研究推進**…自由な学習環境の中で学ぶ総合学習の推進を図りました。
・**生活科の実施**…児童の健やかな成長を育むため、生き物の飼育や学校菜園を通して、命の尊さや自然に親しむ心の育成を図りました。

(10) 特別活動推進経費　177 万６千円

児童会、生徒会やクラブ活動、部活動などを通して、児童生徒による自主的・実践的な活動を助長しました。

(11) 自然体験学習推進経費　42 万１千円

児童生徒が宿泊研修などの自然体験学習を行い、学習を通して児童生徒の自主性や協調性を育みました。

(12) 小中学校情報教育推進事業費　3,355 万７千円

情報通信機器を市内小中学校に配置し、授業や校務等において積極的に活用することで、情報教育の推進及び校務の効率化を図るとともに、算数科の学習支援として、オンライン演習教材を導入し、朝学習などで活用しました。

(13) コミュニティスクール活動支援事業　35 万５千円

今日の学校が抱える様々な課題を解決するために、市内小中学校が設置したコミュニティスクールの活動を支援することで、保護者・地域住民の意見が学校運営に反映される「地域とともにある学校づくり」の推進を図りました。また、放課後の時間を活用し、小学校では地域住民による学習サポートを実施しました。

(14) 児童生徒遠距離通学費補助金　81 万 3 千円

バスで通学する児童生徒の保護者の経済的負担の軽減を図るため、補助金を交付しました。

(15) スクールバス・スクールタクシー運行経費　1,441 万 3 千円

児童生徒の通学の安全を確保するため、札内町・来馬町から幌別小学校、美園町の一部地域から若草小学校及びカルルス地区から最寄りのバス停へスクールタクシーを、上登別・登別温泉・中登別地区から登別小学校へスクールバスを運行しました。

(16) 特別支援教育振興費　27 万 8 千円

心身に障がいのある児童生徒の能力と個性を伸ばし、将来における社会人としての自立と社会参加を促すため、特別支援教育指導内容の研究と実践を図りました。

(17) 特別支援教育就学奨励費　232 万 6 千円

特別支援学級に就学する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、就学に必要な費用を援助しました。

就学奨励費の支給内容（令和６年度・年額、児童生徒一人あたり）　（単位：円）

区分		小学校	中学校	支給経費の内容
入学準備金	1 年	25,555	30,490	小学校又は中学校に入学する者が通常必要とする学用品及び通学用品
学用品費 通学用品費		5,820	11,370	各教科及び特別活動に必要とされる学用品（実験、学習材料費を含む。）及び通学のための通常必要とする上ばき、雨ぐつなどの通学用品の経費。学校行事としての校外活動（遠足など）に参加するための経費
修学旅行費		限度額 10,790	限度額 28,860	小学校又は中学校でそれぞれ 1 回参加する修学旅行費（対象経費内）
学校給食費		26,426	1・2 年 32,520 3 年 31,152	学校給食に要する経費
校外活動費（宿泊）		限度額 1,845	限度額 3,105	学校行事として宿泊校外活動に参加する場合の経費（小５・中２）
校外活動費（宿泊無）		限度額 800	限度額 1,155	学校行事としての校外活動（遠足など）に参加するための経費

通学費	実費額	最も経済的な通常の経路と方法によって通学する場合の交通費（片道の通学距離が小学校４km以上、中学校６Km 以上）

就学奨励費の状況（過去５ケ年の推移）　（単位：人・千円）

区　分		令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
小学校	実施人員	38	37	38	42	45
	決 算 額	1,313	1,271	1,405	1,614	1,493
中学校	実施人員	17	13	16	17	14
	決 算 額	1,013	674	972	973	833
計	実施人員	55	50	54	59	59
	決 算 額	2,326	1,945	2,377	2,587	2,326

(18) 特別支援教育推進経費　165 万 4 千円

心身に障がいのある児童生徒の教育的ニーズを踏まえて、学習に必要な備品・物品等を購入しました。

(19) 言語障害通級指導教室運営経費　25 万 7 千円

言語治療を必要とする幼児・児童を対象に、ことばの教室を開設し、幼児部・小学部の入級判定や保護者との教育相談、言語指導等を行いました。

通級指導校設置状況（令和５年５月１日現在）（単位：人）

区　分	障がい区　分	児童数	学　年　別　内　訳						幼児部の児童	職　員　数
			1	2	3	4	5	6		
幌別小学校	言　語	26	3	4	4	11	2	2	18	小学２　幼児２
鷲別小学校	言　語	27	5	8	6	3	4	1	16	小学２　幼児２

(20) 教育研究会運営事業補助金　42 万 3 千円

職務遂行上、必要な専門知識の向上を図るため、教職員自ら教育のあり方を研究している登別市教育研究会の運営を支援しました。

(21) 教育実践研究奨励経費　17 万 7 千円

市内小中学校の教育レベルを高めるため、実践奨励校ごとに研究主題を定め、その成果を公開研究会で発表するとともに、研究成果をまとめた冊子を作成しました。

(22) 学校図書システム広域化事業　25 万 8 千円

「定住自立圏形成協定に基づく連携事業」として、学校図書システムを共同利用し、システム運用の効率化・安定化及び運用時のセキュリティ強化を図りました。

(23) 英検チャレンジ事業　32 万 9 千円

小学校中学年の英悟に対する意欲を保ちながら高学年からの外国語へつなげることを目的として小学校４年生を対象に英検 Jr. 学校版ブロンズテストを実施しました。また、グローバルに活躍する人材の育成を推進することを目的に、英検３級を受験する登別市立中学校の生徒に対し、検定料の半額を補助しました。

(24) 学校図書館司書配置事業費　11 万 8 千円

市内小中学校（登別中学校を除く）に学校図書館司書を配置し、児童生徒が利用しやすい学校図書館を実現するための環境整備を図るとともに、多様な読書活動の企画を行い、学校図書館の機能向上及び児童生徒の読書活動の定着を推進しました。

(25) 要保護・準要保護就学援助費　4,459 万 3 千円

小・中学生が学用品費や給食費などの心配をすることなく義務教育が受けられるよう、児童生徒の保護者に必要な援助を行いました。

（令和５年度・年額）

<table>
<tr><th colspan="2">区分</th><th>小学校</th><th>中学校</th><th>支給経費の内容</th></tr>
<tr><td>入学準備金</td><td>１年</td><td>57,060</td><td>63,000</td><td>小学校又は中学校に入学する者が通常必要とする学用品及び通学用品</td></tr>
<tr><td rowspan="2">学用品費
通学用品費</td><td>１年</td><td>11,630</td><td>22,730</td><td rowspan="2">各教科及び特別活動に必要とされる学用品（実験、学習材料費を含む。）及び通学のための通常必要とする上ばき、雨ぐつなどの通学用品の経費</td></tr>
<tr><td>２年
～
６年</td><td>13,900</td><td>25,000</td></tr>
<tr><td colspan="2">修学旅行費</td><td colspan="2">実費額</td><td>小学校又は中学校でそれぞれ１回参加する修学旅行費（対象経費内）</td></tr>
<tr><td colspan="2">学校給食費</td><td colspan="2">実費額</td><td>学校給食に要する経費</td></tr>
<tr><td colspan="2">体育実技用具費</td><td colspan="2">現物支給</td><td>保健体育の授業の実施に必要な体育実技用具（スキー小１・４）</td></tr>
<tr><td colspan="2">校外活動費（宿泊）</td><td>限度額
3,690</td><td>限度額
6,210</td><td>学校行事として宿泊校外活動に参加する場合の経費（小５・中２）</td></tr>
<tr><td colspan="2">校外活動費（宿泊無）</td><td>限度額
1,600</td><td>限度額
2,310</td><td>学校行事としての郊外活動（遠足など）に参加するための経費</td></tr>
<tr><td colspan="2">通学費</td><td colspan="2">実費額</td><td>最も経済的な通常の経路と方法によって通学する場合の交通費（片道の通学距離が小学校４ｋｍ以上、中学校６ｋｍ以上）</td></tr>
<tr><td colspan="2">医療費</td><td colspan="2">学校病治療に要した経費（社会保険等の給付額を控除した額）</td><td>就学援助を受ける児童生徒が、伝染病又は学習に支障を生ずるおそれのある疾病（学校病）の治療に要する費用
学校病～トラコーマ、結膜炎、白せん、疥</td></tr>
</table>

			せん、膿痂疹、中耳炎、慢性副鼻腔炎、アデノイド、う歯、及び寄生虫病（虫卵保有含む）
ＰＴＡ会費	限度額 3,450	限度額 4,260	学校に納入するＰＴＡ会費
クラブ活動費 （中学校のみ）		限度額 4,800	学校に納入するクラブ活動費
生徒会費 （中学校のみ）		限度額 2,000	学校に納入する生徒会費
卒業アルバム代等	限度額 11,000	限度額 8,800	卒業アルバム代等の購入に要する費用
オンライン学習通信費	限度額　14,000		家庭学習用としてタブレット端末を持ち帰る場合に、委員会が貸し出すWi-Fiルーターの通信費

就学援助の状況（過去５ケ年の推移）　　（単位：人・千円）

区　　分		令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
小学校	認定人員	391	373	360	341	311
	支給人員	370	348	335	319	297
	決 算 額	28,662	28,572	26,732	25,080	23,722
中学校	認定人員	244	238	221	204	162
	支給人員	230	245	211	192	154
	決 算 額	26,929	29,978	26,287	24,346	20,871
計	実施人員	635	611	581	545	473
	支給人員	600	593	546	511	451
	決 算 額	55,591	58,550	53,019	49,426	44,593

※　認定人員は、年度末の認定人員数（準要保護＋要保護）

※　支給人員は、当該年度の実支給人員数（準要保護+要保護修学旅行参加者）

(26) 姉妹都市小中学校交流事業

市内の小・中学生が、姉妹都市である宮城県白石市・神奈川県海老名市の小・中学生と学校間交流を行い、互いのまちの歴史を学び交流を深めました。

※　予算はその都度、総務費から補助金方式で対応

(27) 教育支援委員会経費　122 万 7 千円

専門家の意見を聞くなどして、適切な就学指導を行うことができるよう、医師・学識経験者・教育職員・児童福祉施設の職員からなる教育支援委員会を設置し、心身の障がいの種類・程度等に関する調査・審議を行いました。

特別支援学級設置状況（小学校）（令和６年５月１日現在）

	障がい区分	学級数	児童数	学年別内訳						職員数	介助員数
				1	2	3	4	5	6		
幌別小学校	知的	1	2				1	1		2	0
	自閉情緒	1	6		3	1	1		1		
幌別西小学校	知的	1	8	1	1	3		1	2	5	1
	自閉情緒	1	5			1	2	2			
	肢体	1	1				1				
幌別東小学校	知的	1	1				1			1	0
青葉小学校	知的	1	2			1	1			4	1
	自閉情緒	1	5	2	1	1		1			
	肢体	1	1	1							
鷲別小学校	知的	1	2		1	1				4	1
	自閉情緒	1	4	1			2		1		
	肢体	1	1		1						
若草小学校	知的	1	6		2	2	2			5	2
	自閉情緒	2	11	1	1	3		2	4		
登別小学校	知的	1	4				1	2	1	2	0
	自閉情緒	1	6		1	2		1	2		
富岸小学校	知的	1	4		1		1		2	5	1
	自閉情緒	2	12		1	4		6	1		
合　計	知的	8	29	1	5	7	7	4	5	28	6
	自閉情緒	9	49	4	7	12	5	12	9		
	肢体	3	3	1	1		1				

特別支援学級設置状況（中学校）（令和６年５月１日現在）

	障がい区　分	学級数	生徒数	学年別内訳			職員数	介助員数
				1	2	3		
幌別中学校	知　的	1	1	1			3	0
	自閉情緒	1	4	1	1	2		
西陵中学校	知　的	1	3		2	1	3	0
	自閉情緒	1	4	2	1	1		
鷲別中学校	知　的	1	7	1	5	1	4	1
	自閉情緒	1	1	1				
登別中学校	知　的	1	1			1	3	0
	自閉情緒	1	2	1		1		
緑陽中学校	知　的	1	4		2	2	5	2
	自閉情緒	2	9	2	5	2		
	肢　体	1	1	1				
合　計	知　的	5	16	2	9	5	18	3
	自閉情緒	6	20	7	7	6		
	肢　体	1	1	1				

障がい区分別児童生徒数　（令和６年５月１日現在）（単位：人）

区　分	児童生徒数	小　学　校	中　学　校
知　的	45	29	16
自閉・情緒	69	49	20
肢体不自由	4	3	1
合　計	118	81	37

(28) いじめ重大事案対策委員会経費　0 千円

教育、心理、人権擁護等の専門的知識及び経験を有する方などから４人を選任し、登別市重大事案対策委員会委員を委嘱しています。

【事業実績】

・委嘱期間：令和５年６月１日～令和８年５月 31 日（４人）

・重大事案発生件数：０件

(29) 小学校体育授業支援事業　302 万 5 千円

市内小学校の体育授業にスポーツ指導員３名を派遣し、球技や器械運動、スキー授業

における実技指導や休み時間における運動を実施し、指導体制の充実を図りました。

（30）統合型校務支援システム導入事業　557 万 9 千円

校務支援システムを導入し、教職員が校務で作成する書類や資料を統合管理・運用することにより、手書きによる転記や確認作業の削減、打ち合わせ時間の短縮、児童生徒の欠席情報の共有など、教職員の事務の負担軽減を図りました。

Ⅲ　社会教育グループ

（１）放課後子ども教室推進事業費　404 万 2 千円

子育て環境の整備を図るため、放課後に子どもたちが安全・安心して過ごせる活動拠点（居場所）をつくり、地域の方々の協力を得て、様々な体験活動や交流活動などの取組を推進しました。

（２）ネイチャーセンター運営管理経費　4,683 万 0 千円

ＮＰＯ法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶを指定管理者として、宿泊型の自然体験学習施設「登別市ネイチャーセンター『ふぉれすと鉱山』」の運営管理を委託し、自然を活用した様々な体験活動を推進しました。

（３）市民生涯学習推進講座経費　43 万 2 千円

・登別ときめき大学…社会、経済、自然、歴史、文化など、多分野にわたる知識を学ぶ場を提供するとともに、まちづくりを担う人材を育成するため「登別ときめき大学」を開校しました。

令和６年度の学生数は７８人です。

・家庭教育学級…市が主体となって、保育所、幼稚園、小学校の保護者を対象に１学級を開設し、交流を図りながら、子育てに関する様々なことを学ぶことのできる学習会を４回開催しました。

（４）教育施設運営管理委託料（市民会館・総合体育館）　6,095 万 7 千円

市民の健全な心身の育成を図るため、教育施設（市民会館・総合体育館）の運営管理を一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団に指定管理者として委託し、市民が活発に文化・スポーツ活動を行うことのできる環境を整えました。

（５）ＰＴＡ連合会助成金　14 万 7 千円

子どもたちの豊かな人間性を育むため、市内の小中学校及び高等学校のＰＴＡで構成されるＰＴＡ連合会に対し、その活動に要する経費の一部を助成しました。

（６）地域学校協働本部事業　232 万 4 千円

地域教育力の向上を図るため、学校・家庭・地域が連携・協働しながら、地域の特色を活かした地域学校協働本部事業を実施しました。

（７）青少年育成指導経費　47 万 6 千円

青少年センターを運営し、青少年非行や犯罪被害等の未然防止を図り、青少年が健やかに育つ環境を構築しました。

（8）二十歳のつどい経費　18 万 7 千円

「二十歳」の節目を祝い励ますとともに、自分に責任をもつことのできる成人としての意識の向上を図るため、登別市二十歳のつどい実行委員会の主催により二十歳のつどいを開催しました。

（9）少年の主張大会経費　3 万 8 千円

中学生が日常生活での体験や日ごろ考えていることなどについて発表を行う少年の主張大会を開催しました。

（１０）子ども会活動振興助成金　78 万 9 千円

子どもたちの「生きる力」と健全な心身の育成を図るため、子どもたちの健全育成のために活動する登別市子ども会育成連絡協議会に対して、その活動に要する経費の一部を助成しました。

（１１）西いぶり定住自立圏文化事業負担金　71 万 6 千円

西いぶり定住自立圏（登別市・室蘭市・伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町）で実行委員会を組織し、令和６年度は登別市にて、「春風亭小朝　落語独演会」の公演を実施しました。

（１２）登別市文化・スポーツ振興財団運営補助金　1,795 万 8 千円

市民に質の高い文化やスポーツの場を提供するため、文化やスポーツ活動の振興を図る一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団に対し、その運営に要する経費を補助しました。

（１３）登別市文化・スポーツ振興財団事業補助金　1,011 万 8 千円

文化振興及びスポーツ推進を図るため、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団が実施する文化やスポーツ活動の振興に係る事業などの実施に要する経費の一部を補助しました。

（１４）郷土資料館運営管理経費　202 万 5 千円

郷土に関する資料を市民に供することにより、ふるさと登別を愛する心を育てることを目的に、郷土の歴史、民俗、産業、文化に関する資料を収集、保管、展示しました。

また、常設展示の一部（アイヌ文化・温泉コーナー等）のリニューアルや、小中学生の受入等を行いました。

（１５）文化財保護経費　51 万 1 千円

郷土を形作る文化財の保護と活用を図ることにより、ふるさと登別に対する理解を深め、大切にする心を養うため、様々な事業を実施するとともに、市指定文化財の指定に向けた調査を行い、学芸員２名を宮城県白石市に派遣して講演を行うなど文化財の普及啓発や活用を図りました。

（１６）文化伝承館運営管理経費　24 万 9 千円

郷土の歴史や文化を伝承することにより、市民の教育・文化の向上を図るため、郷土資料館ボランティアの協力を得て学習会等を開催しました。

（１７）のぼりべつ文化交流館運営管理経費　235 万 7 千円

埋蔵文化財に接する機会を設けることにより、郷土に対する理解を深めるとともに、作品展示の場を設けることで市民の文化活動を推進しました。

（１８）アイヌ文化振興経費　231 万 0 千円

本市のアイヌ文化の振興並びにアイヌの人々の伝統等の市民に対する普及・啓発を図るため、一部アイヌ政策推進交付金を活用し、次の事業を実施しました。

・アイヌ文化講座
・知里幸恵らに関する資料の複製品製作

（１９）生涯スポーツ振興事業　3 万 5 千円

生涯スポーツの振興と市民の健康増進及び体力向上を図るため、関係団体と連携し、スポーツイベントを実施しました。

（２０）スポーツ推進委員会経費　53 万 8 千円

体育・スポーツの振興を図るため、スポーツ行事への参画や軽スポーツなどの普及活動を行うスポーツ推進委員の活動を支援しました。

（２１）６市町スポーツ交流会事業費　14 万 4 千円

小学生のスポーツ交流を推進することにより、児童の健全育成を図るため、西いぶり定住自立圏（登別市・室蘭市・伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町）の子どもたちを対象としたスポーツ大会の開催を支援しました（会場：日鋼室蘭スポーツパーク）。

（２２）学校開放事業費　4 万 8 千円

地域におけるスポーツ活動を促進し、市民の健康・体力づくりの増進を図るため、市内小・中学校等の屋内運動場を市民へ開放しました。

開放した小学校（８校）
開放した中学校（４校）
開放期間　４月～３月

（２３）市民プール運営管理経費　7,744 万 4 千円

市民の健康増進と余暇活動の充実を図るため、市民プールの運営管理を一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団に指定管理者として委託し、施設管理のほか、各種水泳教室・運動教室などを実施しました。

（２４）青少年会館運営管理経費　756 万 8 千円

青少年の健全な育成等を図るため、青少年会館の運営管理を公益社団法人登別市シルバー人材センターに委託し、レクリエーション活動等を推進しました。

（２５）岡志別の森運動公園等運営管理経費　1,736 万 0 千円

市民の健康増進と余暇活動の充実を図るため、岡志別の森運動公園及び川上公園（Ｂゾーン）の運営管理を一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団に指定管理者として委託し、施設管理等を行ったほか、市民が安全・安心に施設を利用できるよう設備の改修等を実施しました。

（２６）地域クラブ活動推進事業費　2,407 万 7 千円

生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる環境を整備するため、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団が地域クラブを運営するために必要な経費を補助したほか、同財団と連携して地域クラブ活動の推進などに取り組む地域おこし協力隊（文化・スポーツ振興コーディネーター）を配置しました。

（２７）市民プール整備事業費　1 億 1,141 万 4 千円

市民が安全・安心にプールを利用できるよう、施設環境の改善を図るため、登別市教育施設等個別施設計画に基づき、市民プールの照明 LED 化改修工事やボイラー改修工事実施設計委託を実施しました。

（２８）市民プール太陽光発電設備整備事業費　2,010 万 7 千円

市民プールに太陽光発電設備を導入し、「ゼロカーボンシティ」に向けた公共施設における脱炭素の取組みを推進しました。

（２９）学校体育施設スマートロック化事業費　546 万 9 千円

市内小中学校の学校体育施設のスマートロック化及び予約システムを導入し、学校体育施設開放事業の利便性向上やセキュリティの向上、利用状況の把握、利用促進を図りました。

Ⅳ　図書館

（１）図書館運営管理経費　1,064 万 9 千円

図書館資料の整備と市民の求める資料の提供に努めるとともに、すべての市民を対象にした読書推進事業を行いました。

・主な事業･･･じどうしつだより・ブックリストの発行、おはなし会の開催、ロビー展示、団体貸出・施設搬送の実施、など。

（２）図書館ネットワークサービス広域化事業費　281 万 4 千円

定住自立圏の連携事業として、登別・室蘭・伊達の３市の図書館情報システムや図書資料等を一体で運用・利用しました。

（３）アーニス分館運営管理経費　603 万 2 千円

図書館分館を運営し、高齢者を対象とした大活字本の充実、雑誌資料の拡充、インターネットを活用したデジタル資料・データベースの提供を行いました。

（４）ブックスタート・ライブラリースタート事業費　37 万 8 千円

・ブックスタート･･･４か月児健診時に絵本２冊と絵本リストやアドバイス集、コットンバッグを配布しました。

・ライブラリースタート･･･３歳児健診対象世帯に当該事業を説明したチラシを送付し、後日、来館された際に施設のサービスや事業、利用方法等の紹介と併せて本１冊を提供しました。

（５）施設の概要

①　所在地　登別市中央町５丁目２１番地１
②　電　話　０１４３－８５－４３２４
③　ＦＡＸ　０１４３－８５－４３２５
④　http://www.noboribetsu.ed.jp/~iinkai/library/index.html
⑤　開館時間　１０：００～１８：００
⑥　休館日　月曜日、国民の祝日（月曜日の場合は翌火曜日も休館）、年末年始、
　　図書整理日（月の最終金曜日）、特別整理期間（年間７日以内）

（6）分館・配本所

① アーニス分館

所在地　登別市中央町４丁目１１番地
　　登別中央ショッピングセンター『アーニス』内
電　話　０１４３－８１－２１８２

② 鷲別配本所

所在地　登別市鷲別町３丁目３番地４
　　鷲別コミュニティセンター内
電　話　０１４３－８６－８８２３

③ 登別配本所

所在地　登別市登別港町１丁目４番地９
　　登別市観光交流センター『ヌプル』内
電　話　０１４３－８３－１１３１
　　（土日祝日）０１４３-５０－６６０２

Ⅴ　市内小学校一覧

令和７年５月１日現在

学　校　名	所在地	電話	学級数	児童数	通　学　区　域
幌別小学校 明治 14 年 6 月 14 日開校	中央町 6-19-1	85-2521	14	255	中央町、常盤町、千歳町、来馬町、札内町(381 番地を除く)、幌別町、幸町、新栄町
幌別西小学校 昭和 27 年 6 月 1 日開校	片倉町 5-13	85-2364	14	241	富士町、新川町、片倉町、柏木町、川上町、鉱山町
登別小学校 明治 25 年 8 月 10 日開校	登別本町 3-25-2	83-1014	9	124	登別温泉町、上登別町、ｶﾙﾙｽ町、登別本町、登別東町、登別港町、富浦町、札内町 381 番地、中登別町
鷲別小学校 明治 23 年 4 月 1 日開校	鷲別町 4-36-21	86-7011	10	184	鷲別町、栄町１・２丁目
富岸小学校 明治 29 年 5 月 1 日開校	富岸町 2-17-4	86-6303	18	341	新生町、富岸町、若山町 3･4 丁目、栄町 3・4 丁目、大和町 2 丁目
若草小学校 昭和 46 年 4 月 1 日開校	若草町 1-1-2	86-7513	15	288	美園町、若草町、上鷲別町
青葉小学校 昭和 52 年 4 月 1 日開校	青葉町 3-3	85-1477	13	244	緑町、桜木町、青葉町、大和町 1 丁目、若山町 1・2 丁目

Ⅵ　市内中学校一覧

令和７年５月１日現在

学　校　名	所在地	電話	学級数	生徒数	通　学　区　域
幌別中学校 昭和 22 年 5 月 1 日開校	千歳町 3-1-3	85-3111	8	140	幌別小学校の通学区域
鷲別中学校 昭和 22 年 5 月 1 日開校	鷲別町 4-36-6	86-7950	12	251	鷲別小学校、若草小学校の通学区域
登別中学校 昭和 22 年 5 月 1 日開校	登別本町 1-1-1	83-1029	4	54	登別小学校の通学区域
西陵中学校 昭和 49 年 4 月 1 日開校	片倉町 5-12-1	85-5041	6	115	幌別西小学校の通学区域
緑陽中学校 昭和 58 年 4 月 1 日開校	富岸町 1-11-1	85-5409	12	295	青葉小学校、富岸小学校の通学区域

Ⅶ　社会教育施設一覧

施 設 名 称	所在地	内　　容	指定管理者
市民会館 昭和 58 年 6 月開館	富士町 7 丁目 33 番地 1	大ホール、中ホール、大会議室、小会議室、和室、サークル活動室、木工室、視聴覚室、調理室、婦人サークル活動室、児童室、展示ホール	（一財）登別市文化・スポーツ振興財団
郷土資料館(文化伝承館) 昭和 56 年 9 月開館 (平成 8 年 3 月開館)	片倉町 6 丁目 27 番地 2	展示室、体験学習室	
市民プール 昭和 50 年 2 月開館 平成 16 年 6 月建替開館	幸町 1 丁目 5 番地 2	公認競泳 25m プール、流水・歩行プール、多目的プール、リラクゼーションプール、トレーニングルーム、研修室、会議室、キッズルーム、休憩室、ギャラリー、ロッカールーム、シャワールーム、身障者更衣室	（一財）登別市文化・スポーツ振興財団
ネイチャーセンター ふぉれすと鉱山 平成 14 年 4 月開館	鉱山町 8 番地 3	自然情報展示、森の図書館、食堂、木工室、宿泊室、研修室、ロビー、ネイチャーホール、浴室	NPO 法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ
総合体育館 昭和 49 年 10 月開館	若山町 2 丁目 26 番地 1	競技場、多目的ルーム、会議室、更衣室	（一財）登別市文化・スポーツ振興財団
青少年会館 昭和 44 年 5 月開館	中央町 5 丁目 21 番地 12	体育館、研修室、和室	
岡志別の森運動公園 平成 9 年 4 月開園	千歳町 97 番地外	野球場、テニスコート、パークゴルフ場、休憩所	（一財）登別市文化・スポーツ振興財団
川上公園（B ゾーン） 平成 6 年 7 月開設	桜木町 5 丁目 41 番地 1 外	野球場	（一財）登別市文化・スポーツ振興財団